

## CSRレポート 2015



YOKOGAWAのCSR

組織統治

人権尊重

社員とともに

公正な事業活動のために

お客様とともに

環境経営

コミュニティとともに

YOKOGAWAグループのCSRに対する考え方や取り組みを本ウェブサイトで開示しています。また、本ウェブサイト掲載情報をPDF化し、年次アーカイブとして掲載しておりますので、ご覧ください。

▶ [CSRレポート\(PDF版\)一覧](#)

冊子については、株主・投資家向け冊子『アニュアルレポート』にかえて、2015年度からは経営計画や事業戦略と関連の深い非財務情報・CSR情報をさらに拡充し、統合思考に基づいた『YOKOGAWAレポート』として発行しています。

『YOKOGAWAレポート』はこちらからご覧いただけます。(公開日:2015年9月1日)

▶ [IR情報ウェブサイト](#)

CSR情報を通じて、YOKOGAWAグループのCSR活動に関して、皆さまのご理解を深めていただければ幸いです。

## 対象期間

本CSR情報では、2014年度(2014年4月1日~2015年3月31日)の活動を中心に報告しています。また、過去の主要な活動や、2015年度の最新情報も一部含みます。

## 対象範囲

報告の対象は、横河電機株式会社および国内、海外の関係会社です。対象範囲の異なるデータについては、各記載箇所に明記します。

## 想定している読者対象

お客様、株主・投資家、お取引先、従業員、地域社会、NPO・NGO、行政など幅広いステークホルダー(利害関係者)を想定しています。

## 社名表記について

本ウェブサイトの文中で使用される「YOKOGAWA」あるいは「YOKOGAWAグループ」は、横河電機株式会社および国内、海外の関係会社を指します。「横河電機」は、横河電機株式会社を指します。

## 参照ガイドライン

- 「環境報告ガイドライン(2007年版)」(環境省)
- 「環境会計ガイドライン(2005年版)」(環境省)
- 「サステナビリティ・レポートガイドライン2006」(Global Reporting Initiative)

# 目次

CSR情報について	1	● 2014年度の目標と実績	47
「CSR情報」のサマリー	3	● 環境負荷の全体像	49
YOKOGAWAのCSR	5	● 環境会計	50
▶ 企業理念・企業行動規範	8	● 過去5年間の環境データ	52
▶ 国際的イニシアチブの支持	10	● 環境に配慮した製品の創出	55
▶ 社外からの評価	13	● グリーン調達	57
▶ お客様とともに新たな価値を社会に提供	15	● LCAラベル	58
ステークホルダーに対する責任	16	● 地球温暖化防止対策	60
▶ 組織統治	17	● 化学物質と廃棄物の削減・省資源	63
● コーポレート・ガバナンス	18	● 水資源に関する取り組み	64
● 内部統制システム	20	● 生物多様性への対応	65
● リスク管理	21	▶ 公正な事業活動のために	68
▶ 人権尊重	23	● コンプライアンス	69
● 人権尊重の取り組み	25	● お取引先様との関わり (サプライチェーン管理)	72
● 障害者雇用	26	● 株主・投資家の皆様との関わり	75
▶ 社員とともに(労働慣行)	27	▶ お客様とともに	76
● 人財育成	29	● お客様満足・品質	77
● 労働安全衛生	30	● 情報セキュリティ	78
▶ 環境経営	34	▶ コミュニティとともに	80
● 2014年の改善事例	35	● 日本での地域貢献活動	81
● 環境方針	38	● 次世代育成支援の取り組み	82
● 推進体制	39	● 外部機関との協働による 社会的課題解決の取り組み	87
● 環境マネジメントシステムの向上のために	40	● 北米・南米での地域貢献活動	93
● YOKOGAWAグループのISO14001取得状況	41	● アジアでの地域貢献活動	94
● 環境教育	42	● 中東・アフリカでの地域貢献活動	95
● これまでの歩み	44	● ヨーロッパでの地域貢献活動	97
		● 過去5年間の人事関連・社会貢献活動データ	98

(2015年8月31日)

## 1. 「CSR情報」の概要

本ウェブサイトの「CSR情報」は、YOKOGAWAグループが事業活動や社会活動を通じて社会の様々な課題に対してどのように取り組み、持続可能な社会の実現に貢献しているかをステークホルダーの皆さまにお伝えすることを目的として公開しています。

報告対象期間は、2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)の活動が中心で、それ以前の主要な活動や、2015年度の最新情報も、ステークホルダーの皆さまに有益だと思われる情報は一部含んでいます。報告対象範囲は、横河電機株式会社および国内、海外の関係会社です。対象範囲の異なるデータについては、該当記載箇所に範囲を記載しています。

## 2. 主な内容

### (1) YOKOGAWAのCSR

当社グループは、

「YOKOGAWAは計測と制御と情報をテーマにより豊かな人間社会の実現に貢献する

YOKOGAWA人は良き市民であり勇気をもった開拓者であれ」

という企業理念をCSRの基本とし、グループ全体に適用しています。横河電機に専任部署を設置してグループ全体のCSR活動を統括するとともに、グループ各社が地域社会の期待に沿ったCSR活動を展開し、地域社会や経済の持続可能な発展に貢献しています。また、「YOKOGAWAグループコンプライアンスガイドライン」の中で、人権、法令遵守、労働安全衛生などに関する具体的な行動のガイドラインを示しています。

### (2) 事業による社会貢献（お客様とともに新たな価値を社会に提供）

YOKOGAWAが提供する製品やソリューションは、新興国を含む世界各国のプラントで使われています。電力、ガス・LNG、水道といった都市インフラや、石油、石油化学、化学、鉄鋼、製紙、医薬品、食品などの様々な業種のお客様のプラントで、多くのYOKOGAWA製品が休みなく稼働しています。

YOKOGAWAの製品は、現場の作業を自動化して工場の生産性や品質を高めるだけでなく、現場を隅々まで監視し、最適な状態にすることによって、操業の安全性を高めたり、事故や故障を未然に防いでいます。また、エネルギーや資源の利用効率を上げ、環境負荷の低減や大気汚染の予防に貢献する高度なアプリケーションも提供しています。貴重な水資源の有効活用や、自然エネルギーの開発にも、多くのYOKOGAWA製品が使われています。YOKOGAWAは、これからもお客様とともに新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

### (3) ステークホルダーに対する責任

企業行動規範の「基本方針」には、企業理念の実現、お客様満足、法令やルールの遵守、人権の尊重、市民社会の秩序や安全の5つを定めており、また、「基本姿勢」として地球環境保全への貢献やステークホルダーとの関係のあり方を定めています。これらの規範に従い、お客様、社員、株主、お取引先様、地域社会などのステークホルダーからの期待に応える取り組みを進めています。

### (4) コーポレートガバナンス、リスク管理、コンプライアンス

当社グループでは、健全で持続的な成長を確保し、株主の皆さまをはじめとするステークホルダーからの社会的信頼に応えていくことを企業経営の基本的使命と位置付けており、「健全で利益ある経営」による企業価値の最大化を実現するために、コーポレートガバナンスの充実に取り組んでいます。

2015年から始まったコーポレートガバナンスコードへの対応を機に、さらに充実したガバナンス体制を構築することを基本方針とし、一層の経営の客観性、透明性等の維持、推進のため、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいきます。

当社グループは、「コンプライアンス最優先」を礎とし、グループ全体でコンプライアンス経営を強化・徹底しています。不正や不祥事を未然に防止するために、「不正をしない風土」と「不正をさせない仕組み」の2本の柱を構築しており、健全で風通しの良い企業活動を推進しています。

内部監査担当部署がリスク管理部署として、グループ各社のリスクを抽出・分析し、改善を提言するとともに、重要な事項は、取締役会及び監査役に報告しています。リスクの評価においては、戦略事業リスクと内部統制リスクの重大度を、影響度および発生可能性の面から評価し、影響度を評価する際は、財務的・人的側面のほか、社会・環境面での影響も考慮しています。

グループの経営に重大な影響を及ぼすおそれがある危機事象に対する対応を「危機管理規定」として定めています。

## (5) 人権尊重／社員とともに

人権の国際基準を順守し、社員の業務遂行に際し地域的・文化的な違いに配慮するとともに、人種・国籍・性別・宗教・年齢・障害の有無などによる差別を行わないことをコンプライアンスガイドラインに定め、グループ全体に徹底しています。

当社グループでは、「社員はもっとも大切な財産である」という考えのもと、働きやすい職場環境をめざし、さまざまな制度を整えて、労働安全衛生やワークライフバランス、グローバル教育を含む人財育成、女性社員の活躍推進などに取り組んでいます。

## (6) 環境経営

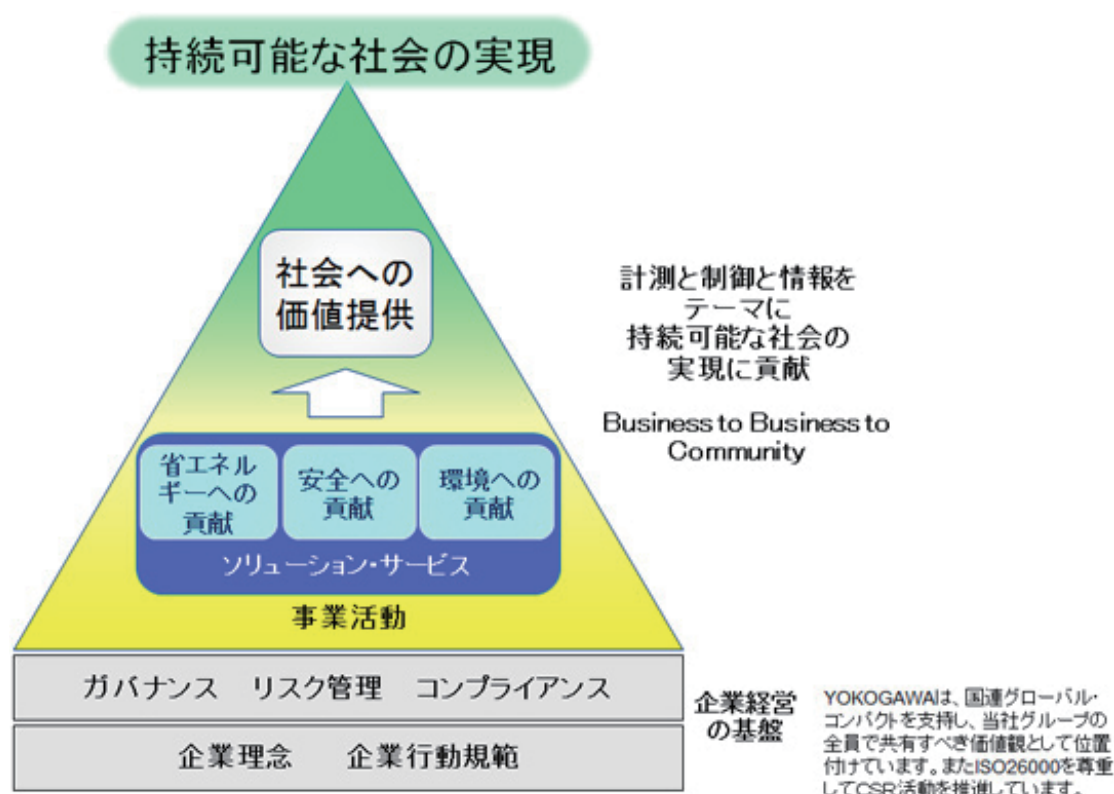
当社グループでは、気候変動やエネルギー・資源問題への対応など、地球環境保全を経営における重要な課題と位置づけ、環境経営を推進しています。環境調和型製品の開発やお客様の事業活動における環境負荷を分析・改善する環境ソリューションの提供などによってお客様の環境経営を推進するとともに、当社グループの事業領域において環境負荷の低減に積極的に取り組んでいます。

## (7) コミュニティとともに

YOKOGAWAは、企業も社会の一員であることを自覚し、「良き市民」として地域と調和するよう努めています。事業を通じて社会に貢献するだけでなく、地域や社会の共通目標の達成や、社会的課題の解決に向けて、地域コミュニティとともに次世代育成支援や環境保全などの分野で取り組みを行っています。

YOKOGAWAは、  
「YOKOGAWAは計測と制御と情報をテーマにより豊かな人間社会の実現に貢献する  
YOKOGAWA人は良き市民であり勇気をもった開拓者であれ」  
という企業理念をCSRの基本とし、グループ全体に適用しています。

横河電機に専任部署を設置してグループ全体のCSR活動を統括するとともに、グループ各社が地域社会の期待に沿ったCSR活動を展開し、地域社会や経済の持続可能な発展に貢献しています。また、「YOKOGAWAグループコンプライアンスガイドライン」の中で、人権、法令遵守、労働安全衛生などに関する具体的な行動のガイドラインを示しています。



## 本業による社会貢献

YOKOGAWAは創業以来、「計測と制御と情報」をテーマに、社会の発展に貢献してきました。

YOKOGAWAが提供する製品やソリューションは、石油、石油化学、化学、鉄鋼、製紙、ガス・LNG、電力、医薬品、水・環境、食品など広範な分野で使われています。これらの重要な産業・社会インフラを支えるとともに、地球環境やエネルギー・資源などの問題に対して省エネルギーソリューションや次世代エネルギーの創出を支援するソリューションも提供し、また、プラントの安全性や効率を高めるソリューションも提供しています。

お客様とともに新たな価値を創造することを表すB to B to C (Business to Business to Community)をCSR活動のコンセプトとして、持続可能な社会の実現に貢献しています。

## 国連グローバル・コンパクトの支持

YOKOGAWAは、企業行動規範の「基本方針」で、企業理念の実現、お客様満足、法令やルールへの遵守、人権の尊重、市民社会の秩序や安全の5つを定め、事業活動を通じた社会への貢献やコンプライアンスなど、企業にとって基本的な責任を果たすべく努めています。

また、2009年に国連が提唱する国際的なイニシアティブ「国連グローバル・コンパクト」に賛同、署名し、人権、労働、環境、腐敗防止に関する10原則の支持、実践にも取り組んでおり、世界中のグループ各社および取引先と共有しています。

今後も、世界各地で事業展開するグローバル企業としての責任を果たすべく努めていきます。

横河電機株式会社  
代表取締役社長  
西島剛志



## CSR推進体制

CSR推進、環境保全、労働安全衛生、社会貢献の機能を持つCSR担当部署を、内部統制の統括機能も持つ経営監査・品質保証本部内に設置し、より包括的なCSR活動をグループ全体に展開する体制を整えています。

## コーポレートガバナンスコードへの対応

企業の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のため、2015年6月には、日本において上場企業にコーポレートガバナンスコードの適用が開始されました。コーポレートガバナンスコードでは、社会・環境問題をはじめとするサステナビリティを巡る課題への適切な対応について規定されています。YOKOGAWAグループは、コーポレートガバナンスの一層の充実を図り、環境や社会をはじめとするサステナビリティ課題に取り組んでまいります。

## ステークホルダーとのコミュニケーション

YOKOGAWAは、製品とソリューションを駆使して省エネルギーや環境負荷低減、プラントの安全性向上などの課題解決に貢献しています。また、コーポレートガバナンスの強化、コンプライアンスの遵守、人財戦略の推進にも取り組んでいます。これら全てのCSR活動の推進にあたっては、YOKOGAWAの中期経営計画における事業戦略を推進するとともに、社会の期待や要請を十分採り入れていくことが必要です。そのために、YOKOGAWAはステークホルダーとのコミュニケーションを通じて得られたご意見や懸念事項などを大切にしています。

お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常の営業活動</li> <li>● グローバルレスポンスセンターへのコール</li> <li>● 展示会やカスタマーミーティングでの対話</li> <li>● ウェブサイトを通じた情報提供</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主総会、投資家向け説明会などの IR 活動</li> <li>● 決算報告書やアニュアルレポートを通じてのコミュニケーション</li> <li>● SRI 評価機関の調査対応</li> </ul>
お取引先様	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常の調達活動</li> <li>● 調達方針説明会</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 労使協議</li> <li>● 社内報やイントラネットを通じてのコミュニケーション</li> <li>● 従業員意識サーベイ</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近隣の方々との対話</li> <li>● コミュニティ活動への参画</li> </ul>
行政・業界団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経済団体、業界団体への参加</li> </ul>
NPO、NGO	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種協働活動に関する対話</li> </ul>



## 企業理念・企業行動規範

YOKOGAWAグループの企業理念、行動規範を掲載しております。

### 企業理念

YOKOGAWAは  
計測と制御と情報をテーマに  
より豊かな人間社会の実現に貢献する  
  
YOKOGAWA人は  
良き市民であり  
勇気をもった開拓者であれ

1988年1月 発表

### YOKOGAWAグループ 企業行動規範

#### I. YOKOGAWAグループの基本方針

##### 1. 企業理念の実現

- YOKOGAWAグループは  
「YOKOGAWAは計測と制御と情報をテーマにより豊かな人間社会の実現に貢献する。  
YOKOGAWA人は良き市民であり勇気をもった開拓者であれ。」  
という企業理念の実現を目指します。
- YOKOGAWA人は企業理念に基づいて行動し、業務を誠実に遂行します。
- YOKOGAWA人はこの行動規範を遵守します。

##### 2. お客様満足

- お客様満足の視点から、社会的に有用な製品とサービスを提供します。
- お客様の信頼を得ることが、株主、地域や社会その他すべての人たちから信頼を得るための基盤と考えます。

##### 3. 法令やルールの遵守

- 法令、条例、慣習その他すべての社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動します。
- 国際社会においては、異文化を受け入れ、異なる法律や社会規範を尊重します。

##### 4. 人権の尊重

- あらゆる人の尊厳と基本的人権を尊重します。

##### 5. 市民社会の秩序や安全

- 市民社会の秩序や安全に脅威を与える勢力とはかかわり合いをもちません。

## II. YOKOGAWAグループの基本姿勢

1. お客様との関係
  - お客様の満足と信頼を得るため、誠実に行動します。
  - お客様に製品やサービスを安全に、また満足して使用していただくため、正確で十分な情報を提供します。
2. 株主との関係
  - 株主からの信頼を得るために、会社資産の効率的使用と、保全や拡充に努めます。
  - 株主に積極的に情報を開示し経営内容を正しく伝えます。
  - 株主とは健全で透明な関係を維持します。
3. 地域や社会との関係
  - 地球環境保全をはじめとして、地域や社会の共通の目標の達成に協力し、その発展に貢献します。
  - 地域や社会との協調と融和に努め、その諸活動に積極的に参加します。
4. 納入業者との関係
  - 納入業者には良識と誠実さをもって接し、公平また公正に対応します。
  - 納入業者との癒着と誤解される行動はいっさい控え、健全で透明な関係を維持します。
5. 競争会社との関係
  - 競争会社とは公正、透明、自由な競争を行います。
6. 政治や行政との関係
  - 政治家や公務員およびその関係者とは、健全で透明な関係を維持します。

## III. YOKOGAWAグループで働く私たちの行動指針

1. 職場における関係
  - 明るく安全で働きがいのある健全な職場を維持します。
  - 嫌がらせ、不当な差別、プライバシーの侵害がないよう、細心の注意を払います。
2. グループ財産の取扱い
  - グループの財産は、企業活動の目的にのみ利用します。
3. 情報の管理
  - グループの保有する情報およびグループが取引先から提供された情報の価値を十分認識し、正確に記録したうえ厳重にこれらを管理します。
  - 業務上知り得た情報は、業務上の目的にのみ使用します。
4. 利益相反行為の禁止
  - 自分の利益のために、業務上の地位を利用したり、グループに損害をもたらすことのないよう行動します。
5. 節度のある私的活動
  - 職務上はもちろん職務外でもYOKOGAWAの信用、名誉を傷つけないよう、または損害を及ぼさないよう行動します。

## 国際的イニシアチブの支持

### 国連グローバル・コンパクト

YOKOGAWAは、国際連合が提唱する人権・労働・環境・腐敗防止に関する10原則(国連グローバル・コンパクト)を支持することを決め、2009年1月5日付で参加企業として登録されました。

国連グローバル・コンパクトは、1999年に当時の国連事務総長のコフィー・アナン氏が世界経済フォーラムで提唱し、2000年に発足。参加する企業に対し、人権、労働、環境、腐敗防止に関する国際的な規範を支持し、実践するよう求めるものです。

当社の事業活動は、いまや世界各地の経済、社会、環境に影響を与えるものとなっています。

当社はグローバル企業としての自覚を持ち、国際規範に則って、世界で深刻化する環境や人権などの課題に積極的に取り組んでいきます。

国連グローバル・コンパクトの10原則とそれに関連する当社の主な取り組みは次のとおりです。

### 人 権

企業は、

#### 原則 1:

国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、

#### 原則 2:

自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

#### 当社の取り組み

- ▶ 人権尊重
- ▶ お取引先様との関わり(サプライチェーン管理)
- ▶ コミュニティとともに

### 労 働

企業は、

#### 原則 3:

組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、

#### 原則 4:

あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、

#### 原則 5:

児童労働の実効的な廃止を支持し、

#### 原則 6:

雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

#### 当社の取り組み

- ▶ 社員とともに(労働慣行)
- ▶ 人権尊重の取り組み
- ▶ 労働安全衛生

### 環 境

企業は、

#### 原則 7:

環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、

#### 原則 8:

環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、

#### 原則 9:

環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。

#### 当社の取り組み

- ▶ 環境経営
- ▶ 産業の省エネルギー
- ▶ 新エネルギー

## 腐敗防止

企業は、

### 原則10:

強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組むべきである。

### 当社の取り組み

▶ コンプライアンス

## ISO 26000

ISO 26000は、国際標準化機構 (ISO) が2010年11月に発行した、組織の社会的責任に関する国際規格で、組織統治、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行などの7つの中核主題を提示しています。

当社はグローバル市場でビジネスを行う企業としてISO 26000を尊重し、コーポレートガバナンスを企業経営の根幹をなすCSRと位置づけ、事業を通じた社会貢献や、環境、人権などステークホルダーの期待に応えるため、社会的責任に関する取り組みを行っています。

ISO 26000の中核主題とそれに関連する当社の主な取り組みは次のとおりです。

中核主題	課 題	掲載箇所
6.2 組織統治	1. 組織統治	コーポレートガバナンス 内部統制システム リスク管理 YOKOGAWA の CSR
6.3 人権	1. デュー・ディリジェンス 2. 人権に関する危機的状況 3. 加担の回避 4. 苦情解決 5. 差別及び社会的弱者 6. 市民的及び政治的権利 7. 経済的、社会的及び文化的権利 8. 労働における基本的原則および権利	人権尊重 人権尊重の取り組み お取引先様との関わり (サプライチェーン管理) 企業理念・企業行動規範 コンプライアンス
6.4 労働慣行	1. 雇用および雇用関係 2. 労働条件および社会的保護 3. 社会対話 4. 労働における安全衛生 5. 職場における人材育成及び訓練	社員とともに (労働慣行) 人財育成 労働安全衛生
6.5 環境	1. 汚染の予防 2. 持続可能な資源の利用 3. 気候変動緩和および適応 4. 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	環境マネジメントシステム向上のために 環境負荷の全体像 環境に配慮した製品の創出 LCA ラベル 地球温暖化防止対策 化学物質と廃棄物の削減・省資源 水資源の取り組み 生物多様性への対応

6.6 公正な事業慣行	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 汚職防止</li> <li>2. 責任ある政治的関与</li> <li>3. 公正な競争</li> <li>4. バリューチェーンにおける社会的責任の推進</li> <li>5. 財産権の尊重</li> </ol>	<p>企業理念・企業行動規範          コンプライアンス          お取引先様との関わり（サプライチェーン管理）</p>
6.7 消費者課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行</li> <li>2. 消費者の安全衛生の保護</li> <li>3. 持続可能な消費</li> <li>4. 消費者に対するサービス、支援並びに苦情及び紛争解決</li> <li>5. 消費者データ保護及びプライバシー</li> <li>6. 必要不可欠なサービスへのアクセス</li> <li>7. 教育及び意識向上</li> </ol>	<p>品質保証          お客様満足・品質          リスク管理          情報セキュリティ          LCA ラベル          企業理念・企業行動規範          総合お問い合わせ</p>
6.8 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティへの参画</li> <li>2. 教育及び文化</li> <li>3. 雇用創出及び技能開発</li> <li>4. 技術の開発及び技術へのアクセス</li> <li>5. 富及び所得の創出</li> <li>6. 健康</li> <li>7. 社会的投資</li> </ol>	<p>コミュニティとともに          日本での地域貢献活動          北米・南米での地域貢献活動          アジアでの地域貢献活動          中東・アフリカでの地域貢献活動          ヨーロッパでの地域貢献活動          LCA ラベル</p>

## 社外からの評価

### モーニングスター社会的責任投資株価指数(日本)



2015年1月現在、モーニングスター社(日本)のSRI株価指数であるMS-SRI(モーニングスター社会的責任投資株価指数)の構成銘柄150社に選定された。(2015年1月)

### JPX日経インデックス400の構成銘柄(日本)

日本経済新聞社と日本取引所グループ(JPX)、東京証券取引所3社が共同で開発、運営する株価指数「JPX日経インデックス400」の400銘柄に選定された。この指数では自己資本利益率(ROE)や時価総額などにより、投資者にとって投資魅力の高い会社を選出される。(2014年8月)

### 安全計装システム「ProSafe-RS」が中国儀器儀表学会から表彰(中国)

安全計装システム「ProSafe-RS」が中国の計測自動制御に関する学会「中国儀器儀表学会」の科学技術賞の一つ、優秀製品賞を受賞した。安全計装システムとして優秀製品賞を受賞したのは本製品が初。本製品の高信頼性、および統合生産制御システム「CENTUM VP」との統合ソリューションによるプラントの安全性向上への貢献が認められた。(2014年10月)

### 安全計装システム「ProSafe-RS」が「科学技術と経済の会」の科学技術・イノベーション賞で会長賞を受賞(日本)

一般社団法人「科学技術と経済の会(JATES)」が主催する「第3回科学技術・イノベーション賞」で安全計装システム「ProSafe-RS」が会長賞を受賞した。本表彰は日本発の新しいビジネスが対象で、効率的で安全な操業を実現した「ProSafe-RS」の発売によって、成熟したとされていた安全計装システムの市場を成長市場に発展させたことへの貢献が評価された。(2015年2月)

### 高精度電力測定器「PX8000」が「EDN Hot 100 products of 2014」に選定(日本)

技術情報サイトEDNが選出する「EDN Hot 100 products of 2014」のテスト・測定器部門の受賞機種11モデルの中に、横河メータ&インスツルメンツ(日本)のプレジジョンパワースコープ「PX8000」が選出された。従来機種よりも高精度の革新的機能が評価された。(2014年11月)

### International Business Awardを受賞(イギリス)

Yokogawa Marex(イギリス)は、地域社会や経済への顕著な貢献を評価され、ワイト島(イギリス)商工会議所による「International Business Award」を受賞した。(2014年11月)

## 地域の人材育成に対しEmployer Excellence Achievement Awardを受賞(サウジアラビア)

Yokogawa Saudi Arabia Ltd. (YMA-KSA) は、中東における地域の人材育成に長年貢献してきたことに対し、第二回Annual Talent & Diversity Leadership Forumにおいて、「Employer Excellence Achievement Award」を受賞した。(2014年12月)

## グリーンパッケージコンテスト(韓国)

韓国横河エレクトロニクス・マニファクチャリング(YMF-K)は韓国政府環境部と環境包装推進協会の後援で毎年開催されるグリーンパッケージコンテストで優勝した。この賞は当社のFA-M3V PLCのパッケージにおいて、段ボールの使用量を削減する改善を行い、環境配慮型のパッケージを実現したことに対して贈られた。(2014年11月)

## 交通安全の優良事業所として表彰(日本)

甲府事業所・工場は、南甲府警察署と南甲府安全運転管理者協議会から優良事業所として表彰された。安全運転講習会やシートベルト着用のチェック・指導を定期的に行っているなど、日ごろの交通安全の取り組みが評価された。(2014年6月)

## 平成26年度省エネ大賞(日本)

横河マニファクチャリング甲府工場の実現した電力・廃液削減事例が、平成26年度省エネ大賞(省エネ事例部門)の審査委員会特別賞を受賞した。テーマは「制御機器生産工場における穴あけ方式改革による省電力」で、生産効率向上、廃液削減、スペース削減などとともに電力の大幅削減を達成したことが評価された。(2015年1月)

## 2014年度グッドデザイン賞(日本)

当社の共焦点定量イメージサイトメーター「CQ1」が、公益財団法人日本産業デザイン振興会の「2014年度グッドデザイン賞」を受賞した。(2014年10月)

## 障害者技能競技大会(アビリンピック2014)での受賞

知的障害のある方の雇用を目的に設立した横河ファウンドリー(YFD)の社員は、スキルアップのためのトレーニングを受け、さまざまな仕事にチャレンジし活躍の場を広げている。YFDの社員は毎年障害者技能競技大会(アビリンピック)に参加しており、2014年大会では以下の賞を受賞した。

- 大阪大会(2014年7月12日)
  - 銀賞受賞(パソコンデータ入力部門) …… 足立 武彦
  - 銅賞受賞(パソコンデータ入力部門) …… 安田 正和
- 東京大会(2015年2月14日)
  - 銀賞受賞(パソコンデータ入力部門) …… 千島 由芽乃
  - 銅賞受賞(オフィスアシスタント部門) …… 松本 悟

## お客様とともに新たな価値を社会に提供

YOKOGAWAが提供する製品やソリューションは、新興国を含む世界各国の基幹産業のプラントで使われています。電力、ガス・LNG、水道といった都市インフラや、石油、石油化学、化学、鉄鋼、製紙、医薬品、食品などの様々な業種のお客様のプラントで、多くのYOKOGAWA製品が休みなく稼働しています。

YOKOGAWAの製品は、現場の作業を自動化して工場の生産性や品質を高めるだけでなく、現場を隅々まで監視して最適な状態にすることによって、操業の安全性を高めたり、人間の危険な作業を自動化することにより事故や故障を未然に防いでいます。また、エネルギーや資源の利用効率を上げ、環境負荷の低減や大気汚染の予防に貢献する高度なアプリケーションも提供しています。貴重な水資源の有効活用や、自然エネルギーの開発にも、多くのYOKOGAWA製品が使われています。

YOKOGAWAは、これからもお客様とともに新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。当社ホームページにて、様々なソリューションの提供による社会への貢献をご覧いただけます。

### ソリューション・サービスの導入事例(当社ホームページより)

- ▶ [業種別ソリューション](#)
- ▶ [省エネソリューション](#)
- ▶ [新エネルギーソリューション](#)



# ステークホルダーに対する責任

企業行動規範の「基本方針」には、企業理念の実現、お客様満足、法令やルールへの遵守、人権の尊重、市民社会の秩序や安全の5つを定めており、また、「基本姿勢」として地球環境保全への貢献やステークホルダーとの関係のあり方を定めています。これらの規範に従い、お客様、社員、地域社会などのステークホルダーからの期待に応える取り組みを進めています。

YOKOGAWAで働くすべての人は財産（人財）と捉え、労働環境を整備し、能力開発を図る機会を積極的に提供しています。また、創業以来の精神である「品質第一」主義でお客様の期待に応えています。企業理念にうたわれている「良き市民」を意識した地域との交流や社員ボランティアによる社会貢献活動も活発に行っています。

## 組織統治

YOKOGAWAは、グループ全体に亘ってコーポレートガバナンス、リスク管理、内部統制、およびコンプライアンスの体制を整えています。環境、安全衛生、品質、労務管理、企業倫理、危機管理などの主要な分野について、内部統制システムを整備し、リスク管理やコンプライアンス推進を行なっています。

## 人権尊重

YOKOGAWAにとって、社員は貴重な「人財」です。人権尊重の様々な取り組みを行い、ダイバーシティを推進しています。

## 社員とともに

社員に能力開発の機会を提供し、働きやすい労働環境を整備しています。また、安全衛生に関わる活動水準の継続的な向上とリスク低減に取り組んでいます。

## 環境経営

地球環境保全を経営の重要課題と位置づけ、環境に配慮して事業活動を行うとともに、お客様に対し、省エネや環境保全ソリューションを提供しています。

## 公正な事業活動のために

全社員が法令および企業倫理を遵守し、コンプライアンスの徹底に取り組むとともに、サプライチェーン全体でCSRを推進しています。

## お客様とともに

製品の販売から保守サービスに至るまで高い品質を保ち、お客様の要望を把握してより満足いただくための活動を展開しています。

## コミュニティとともに

企業理念の「良き市民」を念頭に、次世代育成支援などの地域・社会貢献活動を展開しています。

## 過去5年間の環境データ

## 過去5年間の人事関連・社会貢献活動データ

## 組織統治

YOKOGAWAは、グループ全体に亘ってコーポレートガバナンス、リスク管理、内部統制、およびコンプライアンスの体制を整えています。

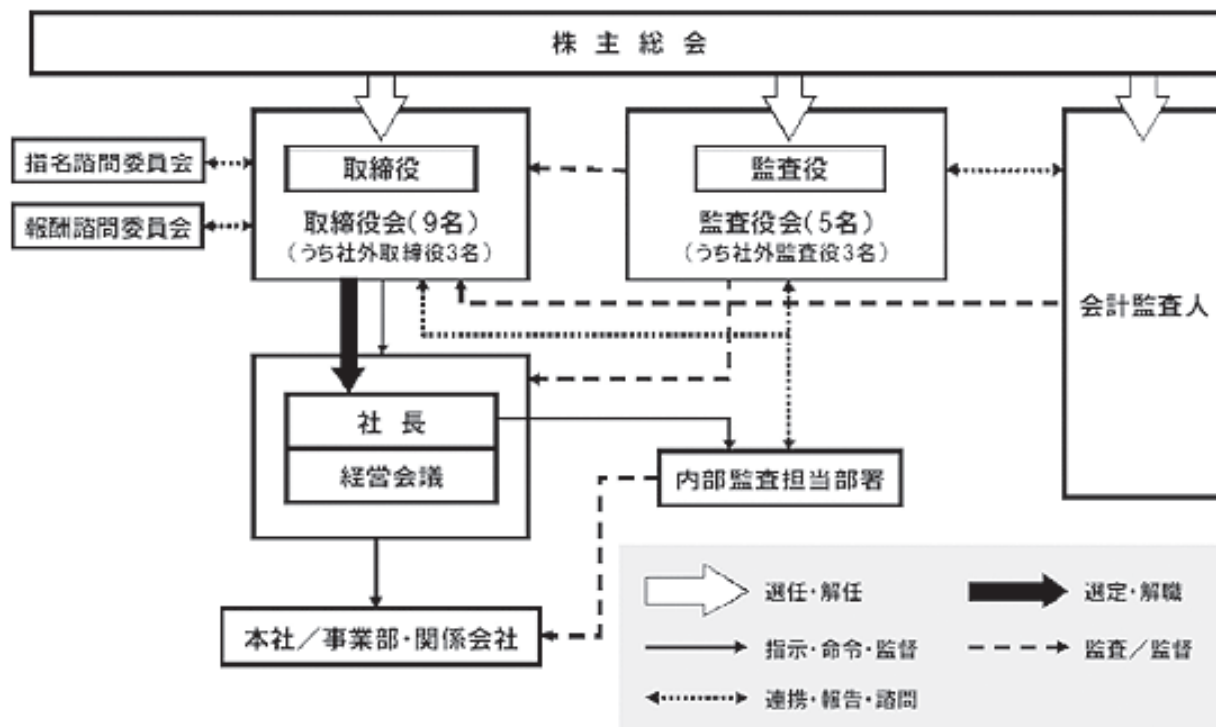
環境、安全衛生、品質、労務管理、企業倫理、危機管理などのサステナビリティに関わる主要な分野について、内部統制システムを整備し、リスク管理やコンプライアンス推進を行なっています。

2015年から始まったコーポレートガバナンスコードへの対応を機に、さらに充実したガバナンス体制を構築することを基本方針とし、一層の経営の客観性、透明性等の維持、推進のため、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。



## コーポレート・ガバナンス

### ガバナンス体制



当社グループでは、健全で持続的な成長を確保し、株主の皆様をはじめとするステークホルダーからの社会的信頼に応えていくことを企業経営の基本的使命と位置付けており、「健全で利益ある経営」による企業価値の最大化を実現するために、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

当社取締役会は、会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を促し、収益力・資本効率の改善を図るべく、企業戦略等の大きな方向性を示し、経営陣による適切なリスクテイクを支える環境整備を行い、客観的な立場から、経営陣(執行役員を含む)・取締役に対する監督機能の充実に図っています。具体的には、当社グループの事業に精通した取締役と、独立性の高い社外取締役による審議等を通して、迅速で透明性の高い意思決定を実行しています。また、社外監査役を含む監査役による監査を通して、取締役の職務執行の適法性、効率性、合理性、意思決定プロセスの妥当性等を厳正に監視・検証し、経営に対する監査機能の充実に図っています。

当社グループは、「YOKOGAWAは計測と制御と情報をテーマにより豊かな人間社会の実現に貢献する」、「YOKOGAWA人は良き市民であり 勇気をもった開拓者であれ」と定めた企業理念のもと、すべてのステークホルダーとの適切な協働により、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に努めます。また、企業活動を健全に継続するためのコンプライアンスの基本原則を「YOKOGAWAグループ企業行動規範」として定めており、取締役が率先して企業倫理の遵守と浸透にあたっています。さらに、財務報告の信頼性の確保及び意思決定の適正性の確保などを含めた「YOKOGAWAグループ内部統制システム」を定めており、当社グループの業務が適正かつ効率的に実施されることを確保するための体制を整備しています。内部統制システムの有効性については、内部監査担当部署が年間計画に基づき内部監査を実施し、重要な事項について取締役会及び監査役に報告しています。

また、当社グループは、その持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主の皆様をはじめとするステークホルダーとの建設的な対話を重視し、財務情報だけでなく非財務情報についても、法令等に基づく開示を適切に行うとともに、法令等に基づく開示以外の情報提供にも主体的に取り組めます。

そして、少数株主や外国人株主を含めあらゆる株主の方々がその権利を適切に行使することができる環境の整備を行い、株主の皆様の実質的な平等性の確保に努めます。

## 内部統制システム

YOKOGAWAでは、企業価値を高めるために人財、資産、予算といった経営資源を適切に配置し、それらを機能的に動かす経営管理のことを「内部統制」と位置づけています。内部統制を実現する手段として内部統制システムを構築し、「経営効率の向上」、「不祥事の防止」の両面をコントロールしています。これにより、グループ全体の企業価値の向上を目指しています。

### 内部統制システムの構造

YOKOGAWAグループの内部統制システムは、下表のように10個の統制システムと4個のサブシステムで構成されています。各統制システムは、事業活動を行っている全ての事業部を横断する形で展開されています。

統制システム	サブシステム	主な法令（抜粋）
企業倫理		法令全般、公益通報者保護法等
意思決定		会社法等
品質マネジメント		製造物責任法、計量法等の製品に関する法令等
労務管理		労働基準法、男女雇用機会均等法等
環境・安全衛生マネジメント		環境法令全般、労働安全衛生法等
情報セキュリティマネジメント		不正競争防止法、個人情報保護法等
輸出管理		外為法等
財務報告	販売管理	金融商品取引法（金商法）等
	購買管理	金商法、下請代金支払遅延等防止法等
	インサイダー取引防止	金商法
	情報開示管理	会社法、金商法等
危機管理		法令全般
監査役監査の環境整備		会社法

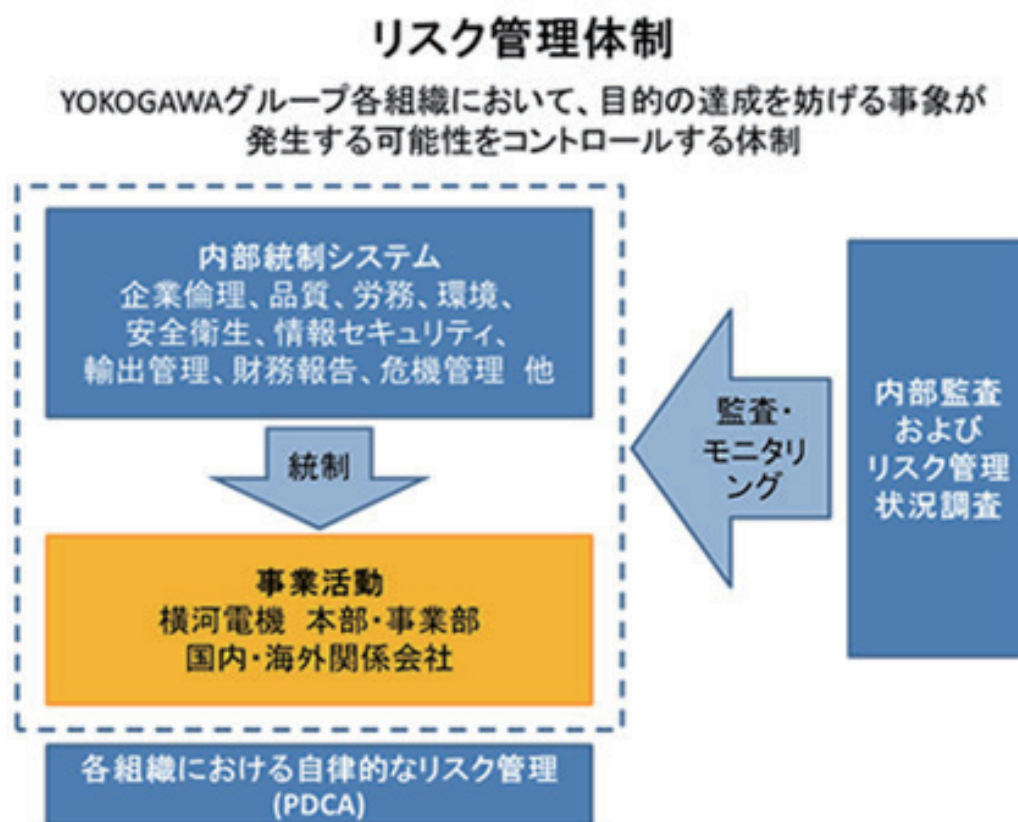
また各内部統制システムは、それぞれの重点結果指標、行動指標を明確にし、指標の達成状況の評価に合わせてPDCAサイクルを回しています。

## リスク管理

YOKOGAWAグループは、各組織において目的の達成を妨げる事象が発生する可能性をコントロールするためのリスク管理体制、および経営に重大な影響を及ぼす事象が発生した場合、速やかに対応するための危機管理体制を整えています。

### リスク管理体制

YOKOGAWAグループの各組織において、目的の達成を妨げる事象が発生する可能性をコントロールすることを目的に、リスク管理体制を整備しています。各組織の自律的なリスク管理活動をベースに、グループを取り巻くリスクを「事業活動」と「内部統制」の両面から経営者が網羅的に把握し、対処しています。



### リスク管理手法

内部監査担当部署がリスク管理部署として、グループ各社のリスクを抽出・分析し、改善を提言するとともに、重要な事項は、取締役会及び監査役に報告しています。

リスクの評価においては、意思決定、市場リスクなどの戦略事業リスクと、品質、環境、安全衛生、労務、企業倫理、危機管理、などの内部統制リスクの重大度を、影響度および発生可能性の面から評価しています。影響度を評価する際は、財務的・人的側面のほか、社会・環境面での影響も考慮しています。

評価の結果、重大度が高く、かつ、グループにおける重要性が高いと判断したリスクについては、「重点管理リスク」に選定し、四半期ごとに管理の状況を経営者に報告しています。

## 2015年度の重点管理リスク

---

2015年度は、次の5項目を重点管理リスクに選定しました。

- 危機管理
- 情報漏洩及び自社のシステム障害
- カントリーリスク
- 国際税務リスク
- 当社製品・サービスの情報セキュリティ脆弱性

## 情報のエスカレーション

---

YOKOGAWAグループは、経営に深刻な影響を及ぼす恐れがあり、また社員の生命が危ぶまれる重大災害、事故、事件などが発生した場合に、被害を最小限にとどめるためには迅速な初動対応と経営トップへの報告が重要と考えています。

そのために「YOKOGAWAグループ重大災害・事故・事件の報告に関するガイド」を定め、グループ全社員に周知徹底しています。これには「報告すべきこと」「報告ルート」「報告手段」など詳細が定められています。また毎年このガイドを見直し、情報のエスカレーションの強化を図っています。

## 事業継続計画 (BCP)

---

当社の主たる事業である制御事業は、電気・ガス・水道などの社会インフラに深くかかわっています。災害時にできる限り事業活動を継続し、社会インフラの維持や復旧に迅速に対応・貢献することを目的として、「YOKOGAWAグループ首都直下地震事業継続計画(BCP)」などを策定しています。発生が懸念されている大地震や感染症の流行など、特定のリスクを想定した対応計画や行動ガイドラインを作り、グループ各社と連携しながら、内容の拡充に取り組んできました。

また、いざという時にBCPが有効に機能するよう、経営層を含んだ危機管理組織のメンバーによる訓練を定期的実施しています。

2011年3月の東日本大震災後には、地震発生直後の緊急・初動対応の見直し、危機管理委員会の体制の見直し、海外拠点および海外顧客への対応の追加などを盛り込んだ改定をしました。当社は、今後もBCPの内容を継続して見直し、災害リスクへ対応していきます。

## 人権尊重

YOKOGAWAは、企業理念、企業行動規範、YOKOGAWAグループマネジメント規定において、人権尊重をグループ全体の方針として明確に定めています。また、人権侵害を未然に防ぐ手段として、YOKOGAWAで働く人すべてを対象とする、「相談・通報窓口」を設けています。

### YOKOGAWAグループマネジメント規定

YOKOGAWAグループマネジメント規定は、グループの経営に必要な基本方針を定めた文書体系で、YOKOGAWAグループ全体に適用されています。この中に、人権、法令順守、労働安全衛生などに関する具体的なルールやガイドラインが示されています。

例えば「YOKOGAWAグループコンプライアンスガイドライン」では、人権に関して次のように定めています。

(以下、「YOKOGAWAグループコンプライアンスガイドライン」より抜粋。)

#### 03 基本的人権の尊重

私たちは、YOKOGAWAグループがかかわるすべての人々の基本的人権と個人の尊厳を常に尊重します。

#### 27 機会均等

私たちは、社員一人ひとりの基本的人権を尊重します。人種・肌の色・国籍・性別・宗教・年齢・社会的身分・障害・その他 YOKOGAWA グループの正当なビジネス上の利益と関係しない要素に基づく差別を行わないことが YOKOGAWA グループの基本方針です。また、事業を行う各国、地域の法令、個々の労働契約などの取り決めに遵守の上、十分なコミュニケーションを通じて労使間の信頼関係の維持・発展に努めます。

#### 28 強制労働・児童労働の禁止

私たちは、世界のいかなる職場においても、強制労働および児童労働を禁止します。いかなる形態においても、労働を強制し、また本人の意思に反して就労させることは許されませんし、各国における就業最低年齢に満たない児童を就業させてはなりません。取引先など、たとえ間接的なかわりの場合でも、非人道的な行為に加担することがないように注意しなくてはなりません。

#### 29 健康・安全の確保

私たちは、労働安全衛生に関連する法律を遵守するとともに、必要な自主基準を設け、安全衛生の向上に努めます。YOKOGAWA グループで働くすべての社員の安全の確保、健康の維持増進を推し進め、快適な職場環境の実現に向けて計画的に改善に取り組みます。社員一人ひとりは、決められた安全・衛生対策に協力し、行動しなければなりません。

#### 30 嫌がらせ（ハラスメント）の禁止

セクシャルハラスメントやストーカー行為、パワーハラスメントなど、一切の嫌がらせ（ハラスメント）行為を行ってはなりません。私たちは、一人の人間としてお互いを尊重し、嫌がらせ行為を許さない企業風土を築いていきます。



## 企業理念

---

YOKOGAWAの企業理念は、「豊かな人間社会の実現」を企業の存在目的とし、社員に「よき市民」であることを求めています。

この企業理念は社員一人ひとりに浸透しています。この企業理念に基づき、YOKOGAWAは計測・制御・情報の技術で、生活を支えるエネルギー、情報通信、上下水などの社会インフラに貢献し、また、産業インフラの効率運用と労働者の安全に貢献しています。また、世界各国のYOKOGAWAの拠点では、地域の災害支援や社員のボランティアによる人道支援が活発に行われています。

## 企業行動規範

---

企業行動規範の5つの柱のひとつに、人権の尊重を掲げ、あらゆる人の尊厳と基本的人権を尊重することを明示しています。あわせて、具体的な行動指針として、健全な職場の維持、嫌がらせ・差別・プライバシー侵害をしないことを定めています。

## 国連グローバル・コンパクト

---

YOKOGAWAは、国連グローバル・コンパクトへの支持を表明しています。国連グローバル・コンパクトに謳われている「人権」の方針を尊重し、国際的な人権規範を遵守していきます。

## ISO 26000

---

ISO 26000は、国際標準化機構 (ISO) が2010年11月に発行した、組織の社会的責任に関する国際規格で、組織統治、人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行などの7つの中核主題を提示しています。

当社はグローバル市場でビジネスを行う企業として、社会的責任に関する国際規格ISO 26000を尊重し、人権等に配慮してビジネスを遂行しています。

## 人権尊重の取り組み

YOKOGAWAにとって、社員は貴重な「人財」です。

人権の国際基準を順守し、社員の業務遂行に際し地域的・文化的な違いに配慮すると共に、人種・国籍・性別・宗教・年齢・障害の有無などによる差別を行わないことをコンプライアンスガイドラインに定め、グループ全体に徹底しています。

### ダイバーシティ推進の取り組み

#### 人種・国籍の多様化

グローバルに事業を拡大する中で、多様な人財がYOKOGAWAで活躍していることは、YOKOGAWAの強みであり、必要条件でもあります。海外のみならず、日本の本社においても多様な人種・国籍の人財の活躍を支援しています。日本の横河電機のグローバル化と、海外グループ社員のキャリア形成を進める目的で、海外グループ社員の日本への受け入れを強化しています。それに伴い、外国籍社員の受け入れや日本での生活支援を担当する専門部隊を横河電機人事部内に立ち上げました。社内インフラも外国籍社員のために整備し、社内放送や業務連絡、食堂メニュー等を日英両方で行っているほか、生活関連情報も適宜提供しています。このような多様化を進めることで、多様な価値観を融合し、新しい考え方や方法を生み出すことも期待されています。

また、2010年からは、日本の大学、大学院に留学していた外国人の新卒者を毎年採用し、横河電機本社での人種・国籍の多様化を積極的に進めています。

#### 女性の活躍推進

新たな価値創造を含めたビジネス競争力強化を目的に、女性社員の活躍推進を積極的に進めています。具体的には、中長期的な育成計画等により、女性社員のキャリア開発を支援し、また、マネージャーの意識転換を図る研修も実施しています。

今後も、女性が働きやすい制度の整備や、新卒社員における女性の積極採用も推進していきます。

### 人権に関する取り組み事例

#### Yokogawa Engineering Asia (シンガポール)

Yokogawa Engineering Asia (YEA)は、Tripartite Alliance for Fair Employment Practices (公正雇用慣行のための三者連合:TAFEP)に雇用者として署名しています。YEAは雇用における差別の撤廃に努め、年齢、人種、性別、宗教、家族の状況に関わりなく、個人の能力や経験に基づいた採用や処遇を行い、また、育成の機会を平等に提供するなどの、公正な雇用慣行に努めています。

#### Yokogawa South Africa (南アフリカ)

南アフリカは、黒人やその他の歴史的に不利な立場にある南アフリカ人(HDSAs)の雇用を奨励し、人種の公平さを実行に移すプログラムとしてBlack Economic Empowerment(BEE)を採用しています。Yokogawa South Africa (YMA-SA)はBEEに準拠するために、黒人と他の有色人種の雇用を促進しており、社員数に占める有色人種の割合は2013年度は1%、2014年度は2%増加しています。

## サプライチェーンにおける人権配慮

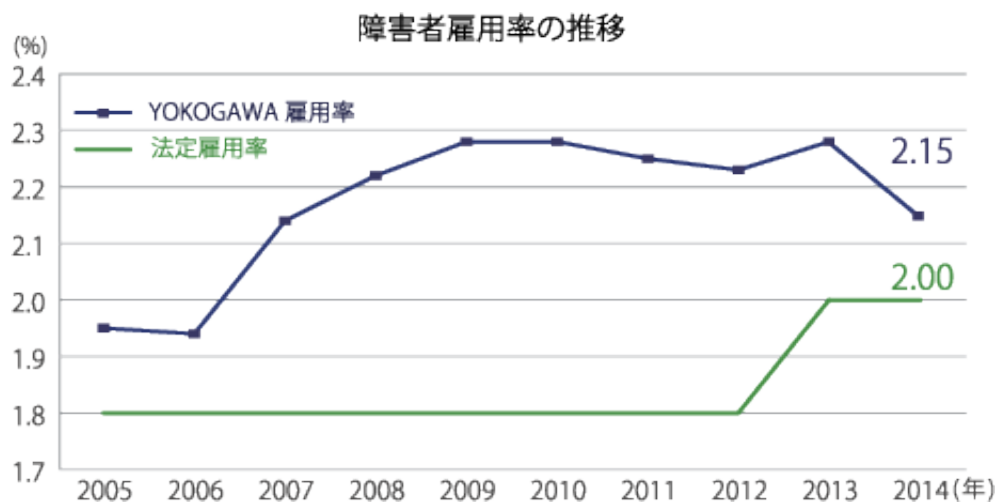
YOKOGAWAは、グループマネジメント規定に基づいて、サプライチェーンにおける人権に配慮しています。「サプライチェーンCSRガイドライン」の中で、強制労働の禁止、非人道的な扱いの禁止、児童労働の禁止、差別の禁止、適切な賃金労働時間の法令順守、従業員の団結権について指針を示し、お取引先様に遵守をお願いしています。

## 障害者雇用

### 障害のある社員の積極的な採用と活躍支援

YOKOGAWAの障害者雇用は、1992年にノーマライゼーションプロジェクトを発足させて以来、一貫して積極的な活動を継続しており、障害のある社員が技術・製造・事務系のさまざまな分野で業務を担っています。また、グループ全体でも雇用促進に努めており、グループ各社がそれぞれにあった障害のある社員の採用と活躍支援を進めています。

YOKOGAWAは今後も継続して障害のある社員に活躍の機会を提供していきます。



## 社員とともに(労働慣行)

YOKOGAWAでは、「社員はもっとも大切な財産である」「社員が成長することは会社が成長する事」という考えのもと、長期的な人財育成に力を入れ、さまざまなキャリア開発の機会を提供しています。また、より働きやすい職場環境をめざし、様々な制度を整えて社員をサポートしています。

### 社員と会社が共に成長する人財育成

人財の階層に応じてきめ細かい研修プログラムを整備し、社員の成長に力を入れることで、社員と会社が共に成長することを図っています。

### ワークライフバランスを支援し、社員の意欲を向上

社員が、やりがい・生きがい・働きがいを実感し、仕事を通じて自己実現できるよう、フレックスタイム制、専門業務型裁量労働制度、フレックスホリデーなどの勤務制度を整備し、業務効率向上と、社員の豊かさ創造を目指しています。

また、社員が仕事と家庭を両立し、働きながら自己実現を目指していけるよう、職場環境の整備に取り組んでいます。就労面では、小学校入学始期まで利用できる育児時間や1年間まで取得可能な介護休職などの法定を上回る制度を設けたり、経済面では、子1人につき年1回10万円を支給する次世代育成支援金制度を導入するなどの支援を行っています。

特に、育児時間、フレックスタイム制度、子の看護休暇などの就労面の制度については男女を問わず多くの社員が利用しており、これら復職後も働き続けることができる制度の充実や職場の理解と支え合う風土は、育児休職取得者ほぼ全員の復職を実現し、社員の意欲向上にもつながっているとと言えます。また、2006年9月に本社敷地内に東京都認証保育所「ポピンズナーサリー-武蔵野」を開設し、社員のみならず地域の方々にも開放することで、地域社会への貢献にも取り組んでいます。

これらの活動が評価され、2007年には仕事と家庭の両立を支援する企業として東京都労働局長から認定を受けました。



くるみんマーク

## 社員支援プログラム(EAP)

### 健康で充実した会社生活を送るためにEAPを推進

社員がストレスによって本来の能力を十分に発揮できない状態を回避し、パフォーマンスを最大限に向上することを目的とした社員支援プログラム (Employee Assistance Program: EAP) を導入しています。YOKOGAWAのEAPでは、予防・早期発見、早期ケア・治療、復職支援など、社員が健康で充実した会社生活を送れるようにメンタルヘルスのサポートを行っています。

### EAPの主な活動

周知活動	Eメールやホームページを活用して関連情報を提供し、メンタルヘルスに関する理解の促進に取り組んでいます。
集合研修	全社員向け研修（任意参加）と階層別研修を実施し、予防・早期発見に努めています。
ストレス調査	ストレス調査の結果を基に職場のストレス要因を把握し、その予防・対処・解消方法などを支援し、快適な職場づくりを目指して職場と一体となった活動を展開しています。
復職支援	メンタルヘルス不調者、退職者、復職者のケアおよびよりスムーズな職場復帰と再発防止に向けて、段階に応じて本人・職場への適切な支援ができるよう、体制を整備し取り組んでいます。
相談対応	社内・社外の相談体制を確立し、メンタルヘルスのみならずキャリアに関することなど、あらゆる相談に応じています。

# 人財育成

社員と会社が共に成長するための仕組みとして、さまざまな人財育成の施策を提供しています。

## 社員と会社が共に成長する人財育成

### 人財育成体系

横河電機の人財育成は、「お客様と信頼関係を築いていくための人格・価値観研修」、「高い技術力を顧客価値の創造につなげられる技術者の育成」、「グローバルなビジネス環境で活躍できる人財の育成」、の3点を軸として行っています。

プログラムとしては、コンプライアンスや情報セキュリティのような共通教育、グローバル教育のような基本スキル教育、各職場の業務内容に応じた専門スキル教育、そしてマネージャーのためのマネジメントスキル教育の、4つの階層で研修を行っています。これらの教育を通して、専門性やグローバル対応力、そして挑戦意欲にあふれた人財を育成しています。社員の成長に力を入れることで、社員と会社が共に成長することを図っています。

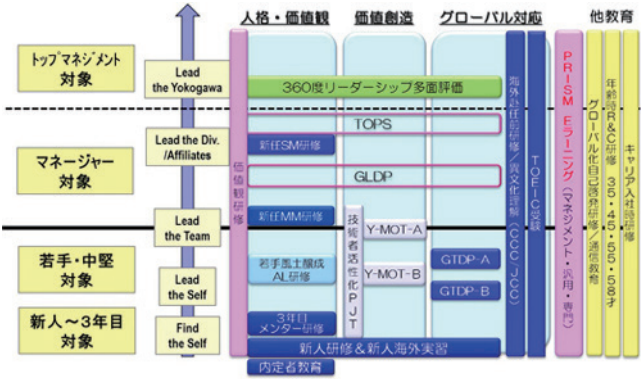
さらに、社員と上司との定期的な面談や、上司に短期および中長期のキャリアプランを申告できる仕組みなどを整備しています。社員と上司がよりコミュニケーションを深め、お互いの認識を合わせることで、チャレンジしていく意識の醸成とキャリア開発を支援しています。

### グローバル人財育成

グローバルな事業展開を積極的に進めているYOKOGAWAでは、グローバル人財の育成・強化に特に力を入れており、人財の階層に応じてきめ細かい研修プログラムを整備しています。

まず、次期経営者層を育成するための研修「Global Leadership Development Program (GLDP)」です。日本も含む海外のマネージャー以上の社員を対象とした研修で、グローバルリーダーに必要なリーダーシップ開発を進めています。次に、若手人財を対象とした「Global Talent Development Program (GTDP)」です。英語でのロジカルコミュニケーション力、プレゼンテーション力、ネゴシエーション力等を習得するほか、YOKOGAWA人として持つべき価値観についての研修や、グローバルな視点で歴史や文化の違いなどをとらえる力を身に付ける研修も行います。

他にも、新入社員全員を対象とする海外実習の実習先を拡大するなど、グローバルな仕事での経験を積む機会を増やし、自ら積極的にチャレンジする社員を後押しすることで、グローバル人財育成の裾野を広げます。



2014 年度体系図

## 労働安全衛生

YOKOGAWAグループは、2006年に「YOKOGAWAグループ労働安全衛生方針」を制定、労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS\*1)の運用を開始しました。2007年からはYOKOGAWAグループ各社でもOSHMS活動を導入し、労働安全衛生に関わる活動水準の継続的な向上とリスクの低減を推進しています。

\*1.Occupational Safety and Health Management System

### YOKOGAWAグループ労働安全衛生方針

YOKOGAWAグループは「労働安全衛生は経営の基盤である」という認識の下に、YOKOGAWAグループで働くすべての人々の安全の確保、健康の保持増進を推し進め、快適な職場を提供していきます。

- ・労働安全衛生マネジメントシステムを確立し、役割・権限・責任を明確にして、労働安全衛生マネジメント活動を推進します。
- ・法規制等を順守すると共に、必要な自主基準を設け、労働安全衛生の向上に努めます。
- ・労働安全衛生に係わるリスクアセスメントを実施し、リスクの除去・低減に努めます。
- ・YOKOGAWAグループで働くすべての人々並びに顧客、株主、地域社会、取引先等との良好なコミュニケーションを促進します。
- ・YOKOGAWAグループで働くすべての人々に、労働安全衛生を確保するための必要な教育・訓練を実施します。
- ・定期的に監査を実施し、労働安全衛生システムを継続的に向上させます。

横河電機株式会社  
執行役員  
経営監査・品質保証本部長  
**渡辺 肇**  
(2015年4月)

「揭示期限：2017年3月」

## 労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の運用

YOKOGAWAグループは、「労働安全衛生は経営の基盤である」という認識に基づき、グループで働くすべての人々の安全確保と、健康の保持・増進のためにOSHMSを運用しています。

定期的に、リスクアセスメントの実施による潜在的なリスクの除去・低減活動、グループ会社を対象とした内部監査による活動の評価・見直しを行うことで、労働安全衛生水準の段階的な向上を図っています。さらに、ヒヤリハット・ニアミスの分析と対策、安全衛生パトロールなど、従来からの活動を融合させ、仕組みの有効性を高めています。

現在、国内外グループ会社が共通の安全衛生目標を掲げ、業務委託作業員などを含む全従業員を対象に、OSHMS活動を展開しています。このうち32社が国際的な認証規格であるOHSAS18001\*2を取得しています。

\*2.Occupational Health and Safety Assessment Series:労働安全衛生マネジメントシステムの認証規格。

### 2015年度 YOKOGAWAグループ労働安全衛生目標

#### 1. 労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)の確立・維持・向上

- (1) PDCAの実行と情報共有により、労働安全衛生活動の継続的な向上を図る。
- (2) 全てのグループ会社でリスクアセスメントを実施し、リスクの除去・低減を図る。
- (3) 内部監査の実施により、労働安全衛生レベルの維持・向上を図る。

#### 2. 法規制等の順守

労働安全衛生に関わる法律、規則、条例等を順守する。

#### 3. 労働災害の撲滅・低減

#### 4. 労働安全衛生活動の実施

- (1) 安全の確保、健康の保持・増進を図る活動
- (2) 交通安全意識高揚のための活動
- (3) 労働安全衛生教育
- (4) 防火・防災訓練

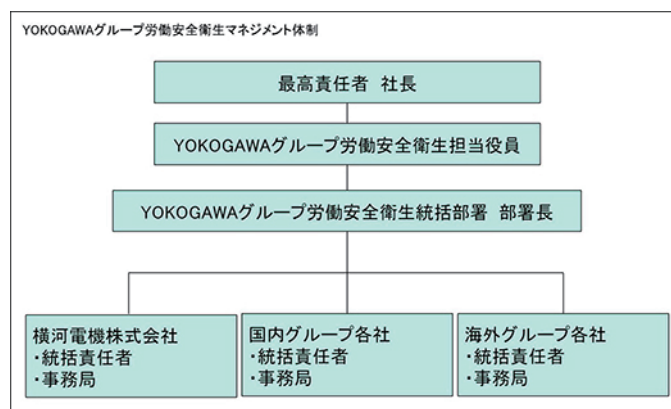
#### 5. 労働安全衛生情報の開示

労働安全衛生に関する取り組みや成果を開示し、YOKOGAWAグループで働く人々並びに社会とのコミュニケーションを図る。

横河電機株式会社  
執行役員  
経営監査・品質保証本部長  
**渡辺 肇**  
(2015年4月)

「揭示期限：2016年3月」





労働安全衛生マネジメント体制

## 労働安全衛生教育

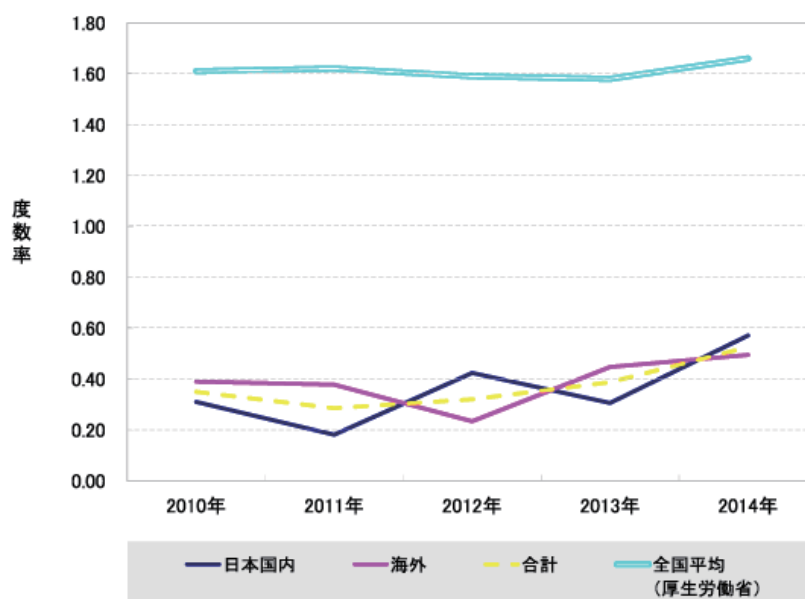
「YOKOGAWAグループ労働安全衛生方針」の浸透を目指し、労働安全衛生にかかわる基本や日常生活のルールをまとめた「労働安全衛生ガイドブック」を作成しています。

YOKOGAWAグループ全体の活動水準を維持・向上することを目的に、国内グループ会社の全従業員を対象としたeラーニング、活動の責任者や事務局、新任者などを対象とした教育、安全衛生委員会での学習会、およびお客様のプラントや工場などにおける作業時の安全確保に関する研修も行っています。また、各グループ会社でも救急救命訓練や通勤車事故対応演習などを実施しています。

## 労働災害の撲滅・低減

YOKOGAWAグループでは、四半期ごとに国内外グループ会社の労働災害実績を集計・分析し、労働災害の撲滅・低減、活動内容の改善に取り組んでいます。YOKOGAWAグループで発生した労働災害については、イントラネットで情報を公開し、グループ内に水平展開することにより、同種や類似の災害の再発防止に役立てています。

YOKOGAWA グループ労働災害（休業）度数率の推移



$$\text{度数率} = \text{休業災害負傷者数} \div \text{延べ実労働時間数} \times 100 \text{ 万}$$

## 交通安全活動

横河電機は、交通安全の推進、事故防止のため、地域の自治体や警察署などの協力を得て、各種交通安全講習会を開催しています。業務用自動車を運転する社員や通勤で自転車を利用する社員に対して、受講を義務付けています。

自動車の運転については、交通ルールの順守を図るだけでなく、地域で開催されるセーフティドライバーコンテストへの積極的な参加、相互啓発による安全意識の高揚にも取り組んでいます。さらに講習会を通じて、地球環境への負荷軽減につながる「エコドライブ」も導入しています。



自転車安全利用講習会

## こころとからだの健康のための取り組み

横河電機は、こころとからだの双方の健康維持・向上に注力しています。社員に対して、スポーツや食事を通じた身体の健康、職場環境の改善による心の健康を促しています。

身体の健康維持・向上の活動では、歩数計を希望者に貸与して楽しくウォーキングに取り組んでもらう「チャレンジ・ウォーキング」や、一定年齢の社員を対象に実施する研修時のスポーツプログラムなどを行っているほか、イントラネットやメール配信などで、健康づくりに役立つ情報を全社員に提供しています。

最近では、メタボリックシンドロームの予防・対策の必要性が高まっています。年齢の節目には、リフレッシュ&チャレンジ研修において、社員がスポーツやバランスのよい食事を通じた健康維持の重要性を再確認するよう促しています。

また、禁煙チャレンジ・キャンペーンや構内禁煙日を毎月設けるなど、禁煙を応援する取り組みも行っています。

近年、メンタルの不調者の増加が社会的な問題になってきています。横河電機では、社員のメンタルヘルスを重要な健康問題として捉え、日常的にメンタルヘルスの向上活動を実施しています。各職場におけるコミュニケーションデーの実施、社員からの相談窓口である健康相談員の配置などを通じて、より働きやすい職場づくりを図っています。加えて、社員支援プログラムの一環として職場のストレス状態の調査や、ストレスの高い職場の管理職を対象とする研修などを実施し、社員の心身両面の健康状態の維持、さらにはモチベーションの向上につなげています。



リフレッシュ & チャレンジ研修の様子

## 環境経営



YOKOGAWAは、地球環境保全を経営における重要な課題と位置づけ、環境経営を推進しています。環境調和型製品の開発やお客様の事業活動における環境負荷を分析・改善する環境ソリューションの提供などによってお客様の環境経営を推進するとともに、自社の事業領域において環境負荷の低減に積極的に取り組んでいます。

### 2014年度の改善事例

- ー省エネ対策を施した新棟建設
- ー「省エネ大賞」を受賞した製造工程の改革
- ー排熱利用によるLPGの削減



横河電機 本社 新棟

### 環境経営の推進

- ー環境方針・推進体制
- ー環境マネジメントシステム向上のために
- ーこれまでの歩み

### 製品による省資源への取り組み

- ー環境に配慮した製品の創出
- ーLCAラベル製品一覧

### 目標と実績

- ー2014年度の目標と実績
- ー環境負荷の全体像
- ー環境会計
- ー過去5年間の環境データ（CO<sub>2</sub>、水、廃棄物、自然エネルギー）

### 自社工場の省資源への取り組み

- 地球温暖化対策
  - ー2014国内グループCO<sub>2</sub>計画・実績グラフ
  - ーScope3のCO<sub>2</sub>排出量
- 化学物質と廃棄物の削減・省資源
  - ーPRTR実績
- 水資源の取り組み
- 生物多様性への取り組み



環境経営のイメージ図

## 2014年の改善事例

YOKOGAWAグループ各社の省エネルギーなどに関する改善事例をご紹介します。

### 省エネ対策を施した新棟建設

#### 横河電機 本社

東京都武蔵野市にある横河電機本社の構内に、2014年11月、新棟が完成しました。新棟には、オフィスとしての機能を持つだけでなく、食堂などの施設を備えています。

新棟の建設にあたり、全館でLED照明設備を採用、断熱・遮熱をする特殊な窓ガラスや日射熱負担を低減するシステムを採用するなど、随所に省エネ効果のある設備を導入し、CO2排出量削減に大きく貢献しています。

また、節水型の衛生機器による、水使用量の低減や、廃棄時に有害ガスが発生しないエコケーブルを使用し、将来にわたる環境負荷低減に配慮して設計をしています。



横河電機 本社 新棟

#### ■ 新棟の省エネ・節水対策の内容と削減効果

実施内容		削減効果 / 年間見込
窓	特殊ガラス（Low-Eペアガラス）の採用により、日射熱の断熱・遮熱を実施（東西北側）	6,234 (kWh)
	遮断システム（ダブルスキン）の採用により、日射熱負担を低減（南側）、遮断システム内に電動ブラインドを設置、自動制御により日射熱負担を低減	1,859 (kWh)
照明	LEDの照明設備を全館に採用	58,295 (kWh)
	事務所エリアについては、初期照度補正制御と昼光利用制御の採用	50,810 (kWh)
設備 機器	空調システムに最新の省エネ基準に対応した設備を採用	46,098 (kWh)
	換気設備について、全熱交換器による熱回収を実施	35,182 (kWh)
	CO2濃度を測定し、換気設備の風量を制御	7,818 (kWh)
	食堂、厨房の換気量強弱切替（半分の時間帯で40%風量減）	21,400 (kWh)
	厨房の給湯器にヒートポンプ方式を採用	83,721 (kWh)
	衛生器具に節水型を使用	1,972 (m <sup>3</sup> )
他	南北の階段等への自然採光	—
	エコケーブルの採用（廃棄時に有毒ガスが発生しない）	—

## 「省エネ大賞」を受賞した製造工程の改革

### 横河マニュファクチャリング 甲府事業所

製造工程の工夫によって実現した電力・廃液削減事例が、一般財団法人省エネルギーセンター主催の「平成26年度省エネ大賞(省エネ事例部門)」において「審査委員会特別賞」を受賞しました。

横河電機の主力製品のひとつである差圧・圧力伝送器のセンサ部の部品「ハーメチックボディー」の穴あけ工程を抜本的に改革し、生産効率向上、廃液削減、スペース削減などとともに電力の大幅削減を達成しました。

差圧・圧力伝送器の生産能力増強にあたっては、ラインの効率に大きく影響する「ハーメチックボディー加工ライン」の見直しが必要となりましたが、スペース増、廃液増、電力増、人員増を回避するために、小径深穴加工を放電加工方式からドリル方式に変更する改革に取り組みました。新加工ラインの構築は、新たな穴あけ加工要素技術の確立に加え、ロボットを使った自動化技術を駆使して実現しました。

これにより、加工ラインの面積半減、電力使用量25%削減、廃液95%削減という大きな成果を上げました。また、この成果を同製品の「カプセルボディー加工ライン」にも横展開し、合計で年間の電力使用量を128MWh、CO2排出量を58t-CO2削減することができました。今後は、加工技術をさらに向上し、穴あけ時間の短縮、ドリル寿命の延長、さらなる小径深穴加工にチャレンジしていきます。



差圧・圧力伝送器

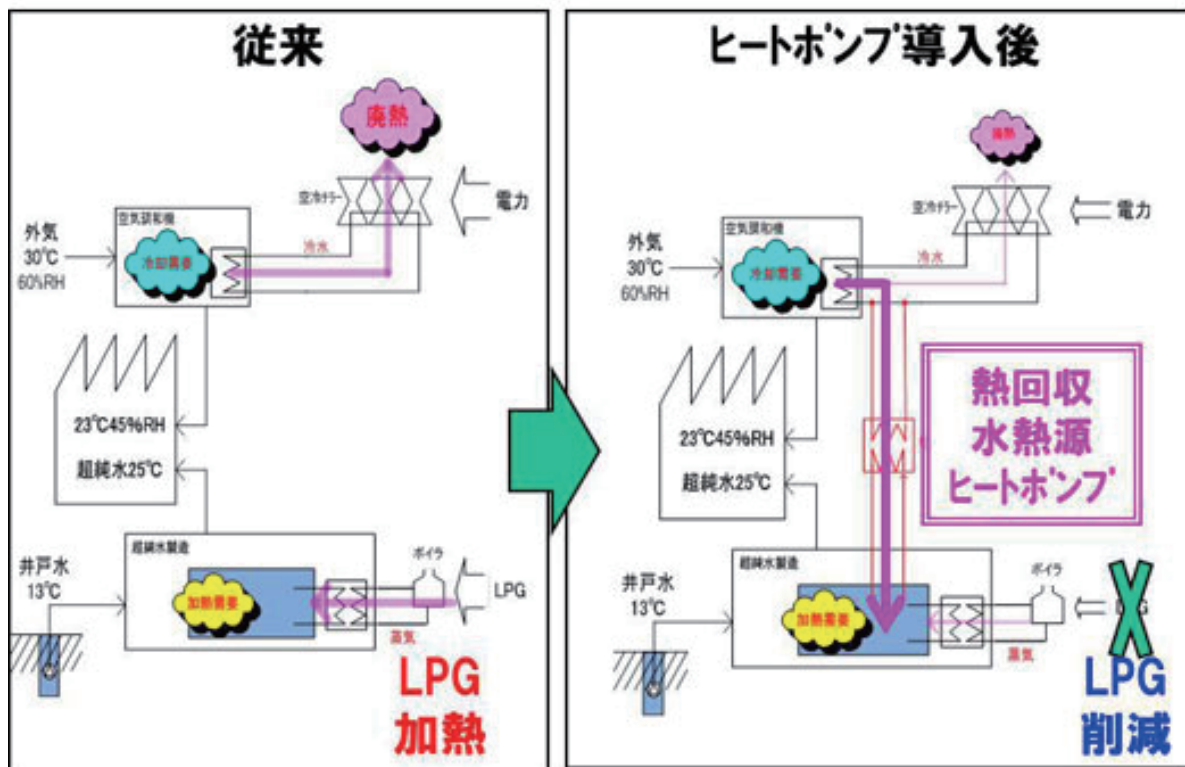
## 排熱利用によるLPGの削減

### 横河マニュファクチャリング 駒ヶ根事業所

クリーンルームで使用している装置には温度管理のために冷却しているものがあります。冷却後の温まった水は空冷チラーで再び冷却し、熱は大気中に排出しています。冬の寒さが厳しい駒ヶ根事業所では、この熱の利用方法を検討した結果、ヒートポンプを使用し熱を回収して、建物内の暖房に使うことにしました。従来は、LPGボイラーで発生した蒸気を使っていましたが、ヒートポンプで回収した熱を使うことでLPGを削減しました。

従来タイプのヒートポンプ装置はどうしても大型で重量もアップするため、基礎工事や調整に時間やコストがかかります。そこで、設置が容易でコンパクトな超小型水熱源ヒートポンプを導入し、初期コストやメンテナンスコストを抑えることができました。暖房利用によるLPG削減効果は1%（原油換算7kl）でしたが効果があることがわかり、さらに超純水の原水加温へも応用しました。2015年5月に導入し、現在稼働中です。この省エネ効果は原油換算で年間67kl削減（約10%のLPG削減）を見込んでいます。

#### ■ ヒートポンプ導入後の運用



## 環境方針

「YOKOGAWAは計測と制御と情報をテーマに、より豊かな人間社会の実現に貢献する」という企業理念に基づき、かけがえのない地球の環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、YOKOGAWAグループの各サイトはその事業活動の遂行にあたり、以下の項目の環境保全活動を推進する。

### 1. 環境マネジメントシステムの確立、維持、向上

地球環境保全活動の推進と継続的な改善並びに汚染の予防を図り、環境マネジメントシステムを確立する。そのため企業活動が、気候変動、生物多様性、水資源等の環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で、環境目的・目標を定めて取組むとともに、環境監査を実施し、システムの維持向上を図る。

### 2. 環境教育の実践

環境方針の理解と意識高揚を図り、業務遂行・地域活動のあらゆる面で環境に配慮して自律的に行動するため、地球環境保全の教育を行う。

### 3. 法規制等の順守

環境側面に適用される法律、規制、協定及び業界の指針等を順守し、地球環境保全に取り組む。

### 4. 資源循環型経営の推進

企業活動の全てにおいて省資源・省エネルギー及び地球温暖化防止に取り組み、さらに廃棄物削減とリユース・リサイクルの推進に努め、ゼロエミッションを目指す。

### 5. 環境汚染物質の削減

有害物質、オゾン層破壊物質など、環境に負荷を与える物質は、可能な限り代替技術への転換を図って削減し、環境汚染リスクを回避する。

### 6. 環境調和型製品の創出

資材調達から製造、流通、使用、廃棄までの環境影響を考慮した製品を開発、生産し、環境負荷の少ない製品を創出し社会に提供する。

### 7. 環境ソリューションの提供

計測、制御、情報の技術を通して地球環境保全に貢献する、より付加価値の高い製品、サービスを社会に提供する。

### 8. 社会への環境貢献

地球環境保全活動への参加と社員の自主的な活動を支援し、良き企業市民として社会との共生に努める。

### 9. 環境情報開示

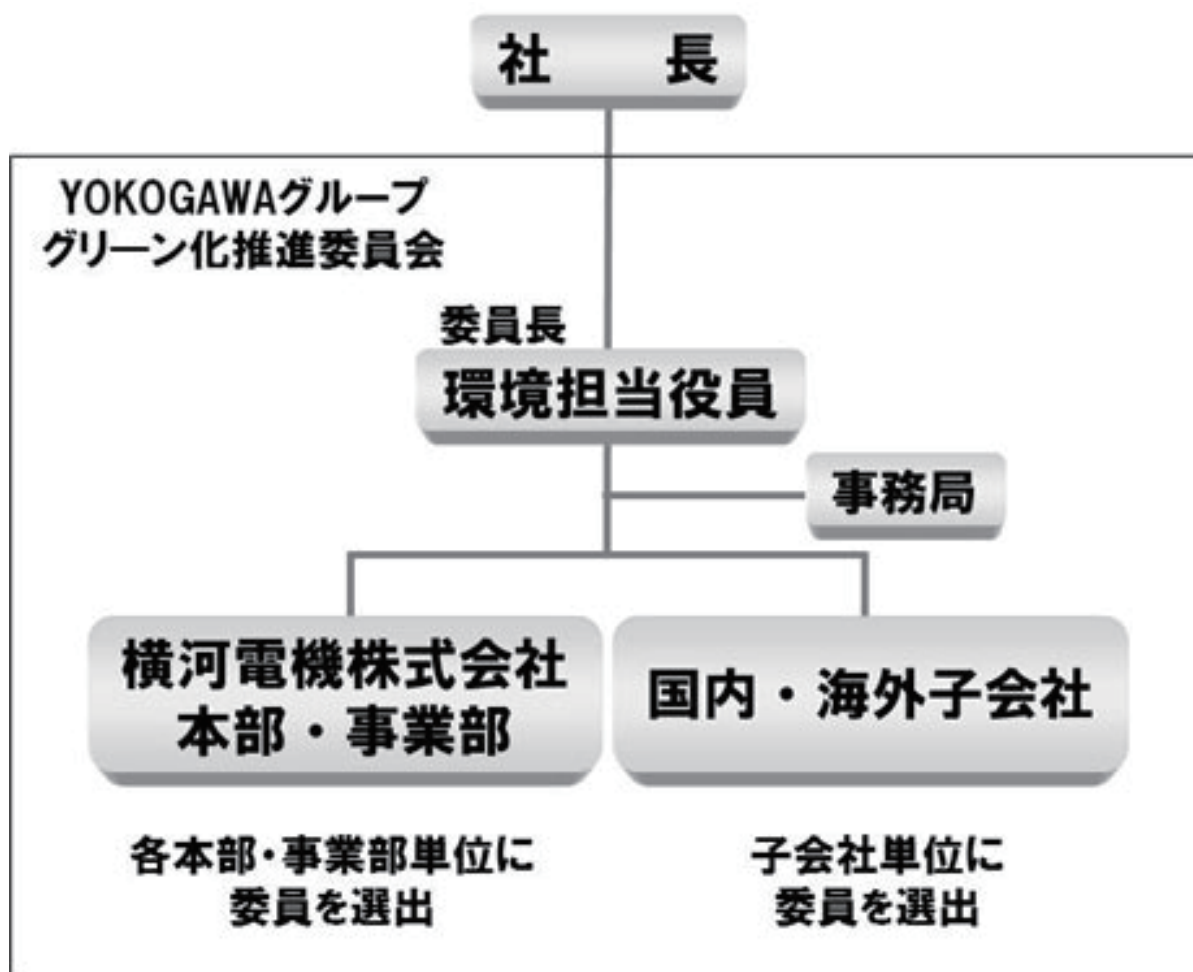
環境方針および地球環境保全活動の情報を開示し、広く社会とのコミュニケーションを図る。

横河電機株式会社 環境担当役員  
渡辺 肇

## 推進体制

YOKOGAWAグループの環境経営の推進体制については、グループの地球環境保全活動ならびに地球温暖化対策の強化を目的とした「YOKOGAWAグループグリーン化推進委員会」を設置し、YOKOGAWAグループの環境担当役員を委員長とした国内・海外のグループを統括する委員会として、環境経営を展開し、地球環境保全活動、温暖化防止対策を推進しています。

### 環境経営推進体制





## 環境マネジメントシステムの向上のために

YOKOGAWAグループは、グループ各社において環境マネジメントシステムを展開し、環境汚染を防ぐための法令や協定等の順守を徹底しています。また、省エネや環境負荷物質を削減するために、可能な限り代替技術への転換を図り、環境負荷低減に取り組んでいます。

主要な事業所、製造拠点については、ISO14001の認証を取得し、環境マネジメントシステムの向上に取り組んでいます。

### 法令順守

2014年度についても環境にかかわる法律、規制、協定等の順守の徹底に取り組み重大な法令違反はありませんでした。

### 土壌・水質の保全

土壌汚染対策法が施行される以前から、独自の管理基準に基づいて工場跡地の土壌・水質の調査を行い、対策を実施しています。

### 環境監査

#### 内部監査

ISO14001の環境内部監査は、システム監査、順法監査、パフォーマンス監査の3項目を指します。全部署で年1回以上の環境内部監査を実施しました。内部監査の指摘事項については、その後速やかに是正処置を実施しました。

#### 環境内部監査項目

システム監査	組織・体制、目標管理、教育、運用管理・是正などの状況を調べ、システムが有効に機能していることを確認する。
順法監査	法規制値の運用と監視（資格・届出・測定データ）などの状況を調べ、法令およびその他の要求事項が順守されていることを確認する。
パフォーマンス監査	目標と実績、法規制値のデータなどの状況を調べ、自主的に定めた運用項目が確実に実行されていることを確認する。

#### 定期審査

各ISO14001取得会社において、年1回、認証機関の定期審査(更新審査もしくはサーベイランス)を受審し、ISO14001の認証登録を継続しています。

## YOKOGAWAグループのISO14001取得状況

国内および海外の主要な事業所、製造拠点を中心としてISO14001を取得しています。

2015年4月現在

サイト		登録日
横河電機（株）本社・工場		1997年 7月
横河マニファクチャリング（株） （小峰サイト、甲府サイト、本社サイト）		1997年 7月
横河メータ & インストルメンツ（株）		1997年 7月
横河ソリューションサービス（株）		2000年 2月
横河電子機器（株）		2000年 11月
蘇州横河電表有限公司	中国（蘇州）	1998年 5月
上海横河電機有限公司	中国（上海）	2000年 3月
重慶横河川儀有限公司	中国（重慶）	2000年 12月
横河電機（蘇州）有限公司	中国（蘇州）	2004年 5月
Yokogawa Electric Asia Pte.Ltd.	シンガポール	1998年 10月
Yokogawa Engineering Asia Pte.Ltd.	シンガポール	2001年 8月
P.T.Yokogawa Manufacturing Batam	インドネシア	2000年 4月
韓国横河エレクトロニクス・マニファクチャリング（株）	韓国	2004年 12月
Yokogawa Corporation of America	アメリカ	2005年 6月
Yokogawa Philippines, Inc.	フィリピン	2007年 6月
Rota Yokogawa GmbH & Co.KG	ドイツ	2011年 8月
Yokogawa Middle East & Africa B.S.C.(c)	バーレーン	2013年 6月

## 環境教育

社員一人ひとりの環境意識向上を図るため、毎年、環境教育を実施しています。横河電機の環境教育は、自覚教育、職場特有教育、資格者教育、職場推進者教育、特別教育に分類し、知識の向上を図れるよう教育を実施しています。

### 横河電機 本社・工場 環境教育体系

	環境管理責任者・推進者	全従業員・関係会社	委託業者
自覚教育	自覚教育		
職場特有教育		職場特有教育	委託先教育
資格者教育	内部監査員養成	法的資格者教育	
職場推進者教育	推進者教育		
特別教育	特別教育		

### eラーニングによる環境教育を実施

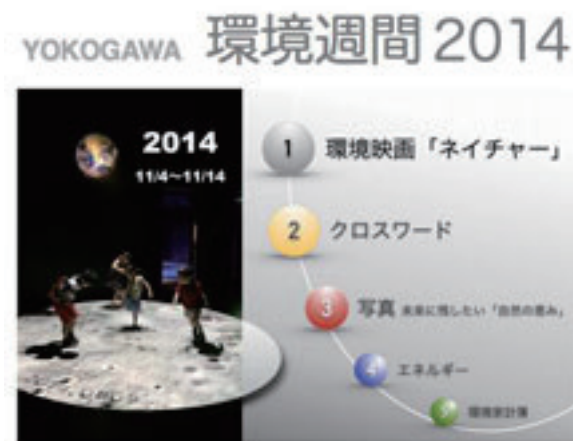
毎年、eラーニングによる環境教育を実施しています。地球環境を取り巻く動向等を学習し、一人ひとりの意識向上を図っています。

## 環境週間の実施

### 横河電機

毎年、11月にYOKOGAWA環境週間を実施しています。従業員の意識向上のため、環境に関するイベントを実施しています。

環境映画「ネイチャー」の上映会や環境家計簿の実施、「未来に残したい自然の恵み写真」の募集、環境に関するキーワードを用いたクロスワードパズルなどを実施しました。



環境週間ポスター

### 『GPN500万人グリーン購入一斉行動』に参加

### 横河電機

グリーン購入ネットワークが主催する「GPN500万人一斉行動」に参加し、ポスター掲示や環境ニュースによる呼びかけをおこないました。

## これまでの歩み

YOKOGAWAグループでは、環境マネジメントシステムを導入して1997年甲府事業所でISO14001の認証を取得する以前から、地球環境保全のためのさまざまな取り組みを行ってまいりました。ここでは1971年以来のYOKOGAWAグループの環境活動を時系列で紹介します。

YOKOGAWAの環境活動を時系列で掲載しています。

1971年		公害防止組織設置
1974年	7月	都条例に適合する廃液除害施設の設置
1987年	5月	環境アセスメントへの取り組み開始
1989年	10月	フロン委員会発足
1991年	4月	地球環境保全推進室の新設
	8月	「地球を守ろう」キャンペーン始まる
1993年	2月	地球環境委員会発足、環境担当役員決定
	7月	環境ボランティアプラン制定
1994年	8月	環境ボランティアプラン 1993年度活動成果報告
	12月	洗浄用特定フロン・トリクロロエタン全廃完了
1995年	6月	「環境調和型企業を目指す」取締役会決定の第一歩として「ISO14001 認証取得」を決定 環境ボランティアプランをISO14001のプランに吸収
	10月	横河電機地球環境委員会再編成
1996年	3月	環境マネジメント基本規程（環境社規）制定
	5月	本社工場、甲府事業所（現横河マニユファクチャリング甲府工場）、小峰工場（現横河マニユファクチャリング小峰工場）の地球環境委員会発足 本社工場に太陽光発電装置設置 / 武蔵野市と防災協定を締結
1997年	4月	環境PR社内報「グリーンタイムズ」発刊
	7月	甲府事業所（現横河マニユファクチャリング甲府工場）ISO14001 認証取得
1998年	2月	本社工場、小峰工場（現横河マニユファクチャリング小峰工場）ISO14001 認証取得
	5月	本社工場にコジェネ発電システム（585kW 2基）導入
	6月	YOKOGAWA 環境カタログ発刊
1999年	9月	「環境報告書 1999」発刊、環境会計を導入・開示
	11月	環境ラベル（タイプII）導入
2000年	7月	本社工場で埋立廃棄物ゼロ達成
	8月	不特定顧客への納品に対応した国内初の「通いコンテナ」を採用
	9月	「環境報告書 2000」発刊、第三者検証を導入
	11月	日中 3E（エネルギー、環境、経済）研究院プロジェクトの環境会計モデルに蘇州横河電表有限公司が参画

2001年	3月	YOKOGAWA グループ環境マネジメント基本規程を制定
	7月	「環境報告書 2001」 発刊
	9月	3 サイト統合認証
	11月	甲府事業所 ( 現横河マニファクチャリング甲府工場 ) で埋立廃棄物ゼロ達成
2002年	2月	横河エレクトロニクス・マニファクチャリング ( 現横河マニファクチャリング ) あきる野事業所 ( 現横河マニファクチャリング小峰工場 ) で埋立廃棄物ゼロ達成 甲府事業所 ( 現横河マニファクチャリング甲府工場 ) にライトスルー型太陽光発電装置設置
	7月	「環境報告書 2002」 発刊
	8月	4 サイト統合認証
2003年	2月	送水ポンプ省エネ制御システム「エコノパイロット」が省エネ大賞「資源エネルギー庁官賞」受賞 甲府事業所 ( 現横河マニファクチャリング甲府工場 ) 経済産業省主催のエネルギー管理優良工場表彰において、「関東経済産業局長賞」を受賞
	7月	「環境報告書 2003」 発刊
	10月	中国・蘇州に環境に配慮した生産拠点として新会社・横河電機 ( 蘇州 ) 有限公司の工場が竣工
2004年	3月	横河エレクトロニクス・マニファクチャリング ( 現横河マニファクチャリング ) 小峰工場、甲府工場に環境に配慮した新工場が竣工
	6月	「環境経営報告書 2004」 発刊
	8月	ISO14001 統合 4 サイトから横河電機本社・工場分離
2005年	3月	横河エレクトロニクス・マニファクチャリング ( 現横河マニファクチャリング ) 甲府工場内に省エネルギー見学コース開設
	4月	国民運動「チーム・マイナス 6%」に参加
	6月	「環境経営報告書 2005」 発刊
2006年	3月	横河マニファクチャリング甲府工場、駒ヶ根工場でゼロエミッション達成
	9月	「社会・環境報告書 2006」 発刊
	10月	金沢事業所が、建築デザイン分野の「ニューオフィス推進賞／環境省」、「グッドデザイン賞」を受賞
	10月	横河電機本社ビルに「グリーン電力 ( 30 万 kWh )」を導入
2007年	6月	「CSR レポート 2007」 発刊
	9月	お客様の環境経営の推進を支援するために、省エネルギー・環境保全ソリューション本部を設立
2008年	6月	「CSR レポート 2008」 発刊
2009年	5月	YOKOGAWA グループにおいて HCFC 全廃完了
	6月	ウェブサイトへ、環境報告書 2009 を掲載
	10月	甲府事業所の省エネ活動が「グリーン IT アワード 2009 経済産業大臣賞」を受賞

2010年	2月	ESCO事業が平成21年度省エネ大賞を受賞
	9月	YOKOGAWAグループの地球環境保全活動と地球温暖化対策の強化を目的に「YOKOGAWAグループグリーン化推進委員会」を設置
2013年	4月	経団連の「低炭素社会実行計画」へ参画
2015年	1月	横河マニュファクチャリング甲府工場の電力・廃液削減事例が、平成26年度省エネ大賞の審査委員会特別賞を受賞

## 2014年度の目標と実績

YOKOGAWA グループ 環境方針	2014 年度（主要サイト）		自己 評価
	取り組み目標	実績	
環境マネジメント システムの確立、 維持、向上	業務に密着した活動目標を登録し、 環境保全活動を実践する *1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務に密着した 143 テーマを完了</li> <li>● 内部監査を実施し、実効のある環境システムの運用を確認</li> </ul>	○
	本来業務における有益な側面の活動を 51 テーマ推進 *2	有益な環境側面の活動を 51 テーマを 完了	
環境教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全社員に対し、環境に配慮した自律行動につながる基本教育を行う *3</li> <li>● 有意業務従事者に対し、専門技能を身につける職場特有教育を行う *3</li> </ul>	100%実施	○
法規制等の順守	排水処理施設の点検を実施する *2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 法令で指定されたタンク、配管、めっきライン等の点検実施</li> <li>● 地下室の天井点検実施</li> </ul>	○
資源循環型経営 の推進	<b>エネルギー CO2 排出量の削減（国内グループ）</b> CO2 総排出量 52,601t-CO2/ 年 （基準年 2005-2007 の排出量平均値より 7%削減）	<b>エネルギー CO2 排出量の削減（国内グループ）</b> CO2 総排出量 34,064t-CO2/ 年	○
	<b>廃棄物総発生量の削減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2003 年度比 37%削減（総発生量 479t/ 年） *1</li> <li>● 廃棄物総発生量を 2,494t/ 年に抑制 *2</li> </ul>	<b>廃棄物総発生量の削減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2003 年度比 31%削減（総発生量 524t/ 年）</li> <li>● 廃棄物総発生量を 2,267t/ 年に抑制</li> </ul>	△
	<b>省資源</b> 製造ライン、設備の省資源改善を 8 テーマ実施 *2	<b>省資源</b> 製造ライン・設備などの省資源改善を 8 テーマ達成（廃棄物の削減、使用電力の削減、仕組みの改善など）	○
環境汚染物質の 削減	トルエン・キシレンを 2,990kg 削減 *2	3,438kg 削減 （塗装用プライマーの見直し等）	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鉛フリーはんだへの移行を推進し、計画製品に 100%適用 *2</li> <li>● 鉛フリーはんだ付け装置導入検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鉛フリー適用計画の全製品に対し適用</li> <li>● 調査実施</li> </ul>	



環境調和型製品の創出	アセスメント基準を適用し、開発製品のCO2排出量を25%以上削減 *1	アセスメント基準適用製品 10 機種登録、設計審査スケジュール通り実施	○
	グリーン調達品購入調査と推進 *2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2社の通い箱の実施</li> <li>● 一元発注化の実施</li> </ul>	
環境ソリューションの提供	環境調和型製品の販売拡大 *1	計画通り実施	○
社会への環境貢献	自然保護活動・社会活動・地域活動などを通して社会貢献活動を推進 *1	各地域の清掃活動に参加	○
	自然保護活動・社会活動・地域活動などの社会貢献活動を12回以上実施 *2	各工場において延べ14回の社会貢献活動を実施	
環境情報開示	情報を開示し広く社会とのコミュニケーションを図る *1	WEB版CSRレポートの公開	○
	インターネットおよびイントラネットの充実 *2	インターネットおよびイントラネットの掲載情報の更新	

(注) 主要サイト：横河電機本社・工場、横河マニュファクチャリング

\*1 横河電機本社・工場

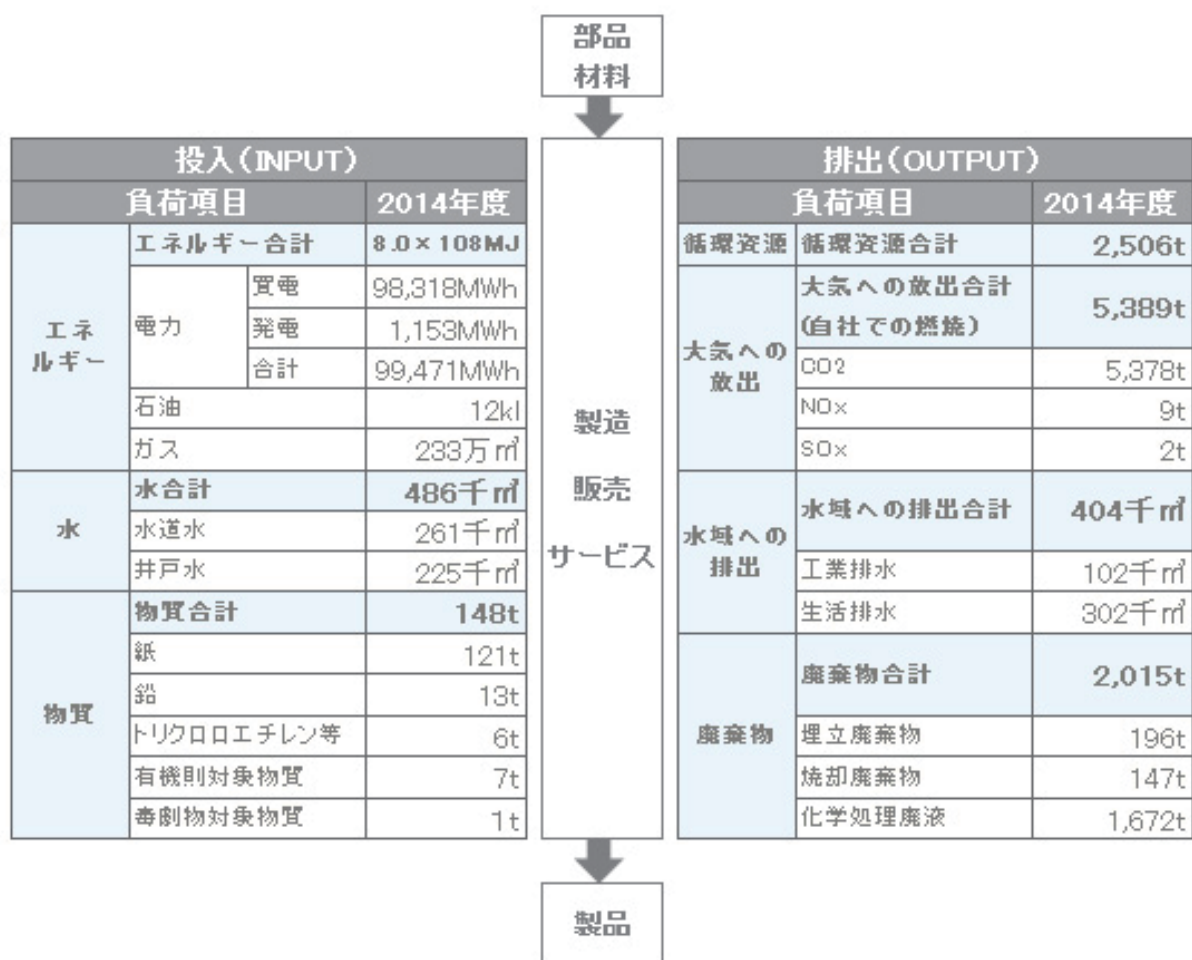
\*2 横河マニュファクチャリング

\*3 共通の目標

## 環境負荷の全体像

YOKOGAWAでは、一連の事業活動(製造・販売・サービス)に投入したエネルギー・原材料の「インプット量」、そして大気・水域などに排出した物質と廃棄物の「アウトプット量」について、それぞれエコバランス(年間収支)を把握しています。エコバランスを分析することにより、資源の有効利用、エネルギー効率の向上、循環資源化率の向上などに役立っています。

### 環境負荷の全体像(2014年度)



※データ範囲 ISO14001取得会社(うち生産拠点)

## 環境会計

環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」に準拠した環境会計で環境活動に関わるコストとその経済効果を定量的に把握しています。

### 環境保全コスト(単位:百万円)

分類	項目	主な取り組み	投資額	費用額
工場内コスト (事業エリア内コスト)	公害防止コスト	監視測定	93.4	135.3
	地球環境保全コスト	省エネルギー	464.0	275.6
	資源循環コスト	廃棄物等の発生抑制	14.9	111.7
調達・物流コスト(上・下流コスト)		グリーン調達	0	2.3
EMS維持管理コスト(管理活動コスト)		EMS更新、教育	0	150.0
社会活動コスト		環境イベント	0	15.4
原状回復コスト(環境損傷コスト)		土壌修復	0	424.0
計			572.3	1,114.3

集計範囲：ISO14001 認証取得サイト(うち生産拠点)

### 環境保全効果

分類	効果の内容(単位)	2013年度	2014年度	効果
資源投入	総エネルギー投入量(10 <sup>8</sup> MJ)	8	8	0
	水資源投入量(km <sup>3</sup> )	567	486	-81
温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量(t)	5,455	5,378	-77
	CO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位(t-CO <sub>2</sub> /億円)	2	2	0
大気汚染	NO <sub>x</sub> 排出量(t)	9	9	0
	SO <sub>x</sub> 排出量(t)	2	2	0

集計範囲：ISO14001 認証取得サイト(うち生産拠点)

## 環境保全に伴う経済効果—実質的效果—(単位:百万円)

効果の内容	金額
リサイクルによる収入額（有価物売却等）	70.2
省エネルギーによる費用削減（電力等）	3.9
省資源による費用削減（水、紙等の削減）	2.5
計	76.6

集計範囲：ISO14001 認証取得サイト（うち生産拠点）

## 過去5年間の環境データ

### CO2総排出量

YOKOGAWAグループにおけるCO2総排出量および売上高原単位  
データ収集範囲：国内、海外拠点

### CO2総排出量

	2010	2011	2012	2013	2014
国内	48,079	42,044	41,266	36,231	34,064
海外	23,962	27,122	27,722	28,877	29,303
合計	72,041	69,166	68,988	65,108	63,367

(単位：t-co2)

### 原単位 (CO2排出量売上高原単位)

	2010	2011	2012	2013	2014
国内	16.71	14.56	15.37	12.90	12.08
海外	11.47	11.97	11.07	9.16	8.47
合計	14.5	13.42	13.29	10.92	10.09

(単位：t-co2/ 億円)

## 水使用量

YOKOGAWAグループにおける水使用量および原単位  
データ収集範囲：国内、海外拠点

## 水資源投入量、排水量

		2010	2011	2012	2013	2014
国内	水資源投入量	599	555	541	444	351
	排水量	521	404	355	382	305
海外	水資源投入量	179	178	228	239	253
	排水量	131	90	108	101	112
合計	水資源投入量	778	733	769	683	604
	排水量	652	494	463	483	417

(単位：千 m<sup>3</sup>)

## 原単位 (水資源投入量売上高原単位)

	2010	2011	2012	2013	2014
国内	0.21	0.19	0.20	0.16	0.12
海外	0.09	0.08	0.09	0.08	0.07
合計	0.16	0.14	0.15	0.11	0.10

(単位：千 m<sup>3</sup>/ 億円)

## 廃棄物総発生量

YOKOGAWAグループにおける廃棄物総発生量および原単位  
データ収集範囲：国内、海外拠点

## 廃棄物総発生量、最終処分量

		2010	2011	2012	2013	2014
国内	総発生量	4,536	4,356	3,796	3,355	3,607
	最終処分量	156	170	166	159	109
海外	総発生量	1,845	2,350	2,547	1,788	1,932
	最終処分量	449	405	851	782	1,139
合計	総発生量	6,381	6,706	6,343	5,143	5,539
	最終処分量	605	575	1,017	941	1,248

(単位：ton)

## 原単位(廃棄物総発生量の売上高原単位)

	2010	2011	2012	2013	2014
国内	1.58	1.51	1.41	1.19	1.28
海外	0.88	1.04	1.02	0.57	0.56
合計	1.28	1.30	1.22	0.86	0.88

(単位：ton/ 億円)

## 自然エネルギー

YOKOGAWAグループにおける、自然エネルギー使用量  
データ収集範囲：横河電機、横河マニュファクチャリング

	2010	2011	2012	2013	2014
太陽光発電	81,601	89,066	96,856	86,442	85,480
グリーン電力証書	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000

(単位：kWh)

## 環境に配慮した製品の創出

YOKOGAWAでは、環境に配慮した製品作りを推進するため、長期使用性や省エネルギーなどの項目について設計基準やアセスメント基準を定めて製品開発に取り組んでいます。アセスメント基準の中でも、「ライフサイクルアセスメント(LCA)基準」を用いてエネルギー使用量、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量、窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)排出量、硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)排出量などの各項目について評価しています。評価した製品の一部には、LCAラベルを付与し、LCA結果を開示しています。



## 環境適合設計のためのルール

### (1) 製品設計における環境アセスメント基準

再資源化・処理の容易性、省資源化、省エネルギー、長期使用性、回収・運搬の容易性、安全性・環境保全性、情報の開示、梱包の8つの分野においてアセスメント基準を定め、初期設計・中間設計・最終設計の各審査時に評価します。

### (2) ライフサイクルアセスメント(LCA)基準

ライフサイクルアセスメント基準とは、製品のライフサイクルにおける使用エネルギー、CO<sub>2</sub>排出量、NO<sub>x</sub>排出量、SO<sub>x</sub>排出量などを事前評価するための基準で、初期設計・中間設計・最終設計の各審査時に評価します。

### (3) 環境調和型製品設計ガイドライン

製品の長寿命設計、省エネルギー設計、省資源設計、材料・部品の選択指針、リサイクル・廃棄を考慮した設計、加工法・組立法を定めています。

### (4) 製品含有化学物質管理基準

設計段階で環境に配慮した部品、材料を選択するための基準です。管理物質レベルを5つ設定しています。

禁止物質1: 含有禁止物質

禁止物質2: RoHS指令対象物質

管理物質1: REACH規則SVHC(高懸念物質)

管理物質2: 濃度による禁止や用途制限など何らかの制限のある物質

管理物質3: 含有量を把握する物質

### (5) リサイクル製品設計基準

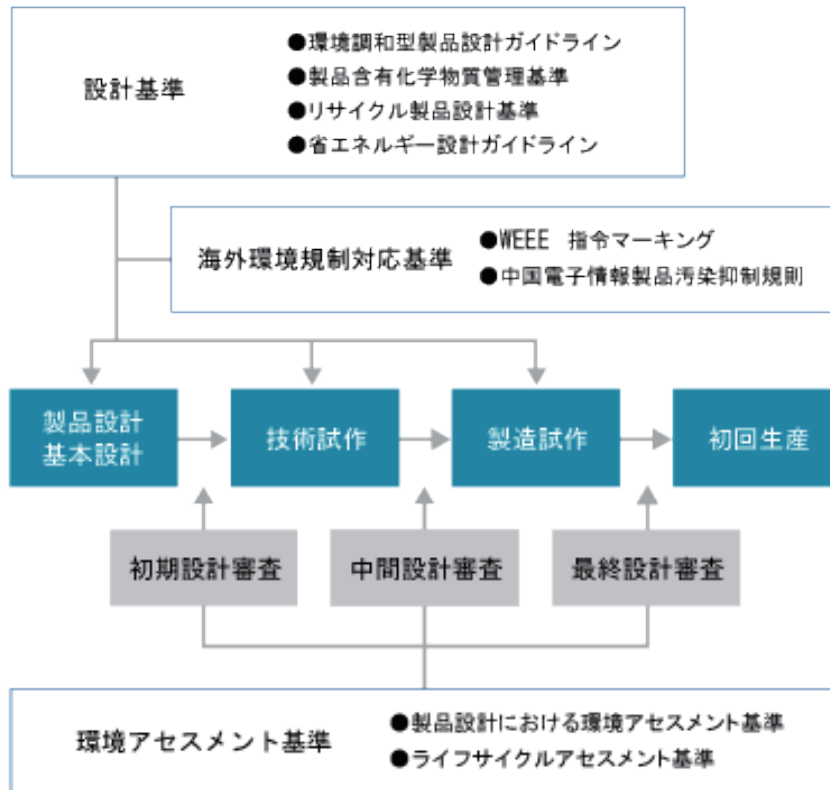
廃棄物発生抑制(リデュース)とともに、使用済み製品の再使用(リユース)、再生使用(リサイクル)など3Rを促進する基準です。

### (6) 省エネルギー設計ガイドライン

製品使用、製造段階で省エネルギー化を図ることを明記したガイドラインです。製品の省エネルギー設計技術や、製造時の省エネルギー設計技術などが紹介されています。



## 環境適合設計基準と環境アセスメント基準



## 製品設計における環境アセスメント基準

(1) 時期	初期設計審査／中間設計審査／最終設計審査
(2) 評価項目	再資源化・処理の容易性、省資源化、省エネルギー、長期使用性、回収・運搬の容易性、安全性および環境安全性、情報開示、梱包の8分野、29項目
(3) 評価基準	法規制をクリアしていなければ0点 法規制をクリアしており、なおかつ30%以上の改善は4点、15%以上の改善は3点、5%以上の改善は2点、5%未満の改善は1点とする
(4) 合否判定基準	合格は評価項目に0点がなく、総合評価点が従来機種を上回っていること 不合格は評価項目に0点があること、または総合評価点が従来機種と同等以下。改善のガイドラインは25%以上の改善を目標としており、あくまでも設計に環境負荷低減の視点を盛り込むことを狙いとしている

## グリーン調達

国内においては、家電リサイクル法、資源有効利用促進法など、海外においては、欧州諸国で廃電気電子機器 (WEEE) 指令や特定有害物質の使用禁止 (RoHS) 指令などの法規制が整備されてきています。こうした背景の下、YOKOGAWA は、企業活動のあらゆる面で持続可能な社会の構築を目指しています。

YOKOGAWAは、「環境負荷の少ない資材調達 = 環境調和型製品の提供」を基本に、環境に配慮したグリーン調達活動を積極的に推進していきます。

### グリーン調達

企業活動のあらゆる面で持続可能な社会の構築に貢献するという環境理念の下、「グリーン調達ガイドライン」を作成し、グリーン調達活動を推進しています。

## LCAラベル

YOKOGAWAは、製品が環境に与える影響を最小限にすることを旨とし、1999年から新たに開発する全ての製品の設計段階において、ライフサイクルアセスメント(LCA)を実施しています。実施したLCAの結果の一部は、当社のホームページで開示しています。LCAを開示する製品には、製品紹介のホームページや販売資料中に「LCAラベル」を掲示しています。これは、ISO14021で規定されている自己宣言による環境ラベル(タイプII)です。



### LCAラベル使用の条件

以下に示す条件をすべて満たした製品に、LCAラベルを掲示します。

1. YOKOGAWAの技術規格に基づいてライフサイクルアセスメントを実施していること
2. ライフサイクルアセスメントの結果を、当社規定のルールに従いYOKOGAWAのホームページで開示していること

### LCAの考え方

YOKOGAWAは、JIS Q 14040「環境マネジメント-ライフサイクルアセスメント-原則及び枠組み」を参考に、独自のLCA基準を設定しています。評価に当たっては従来製品を比較対象としています。なお、新規に開発する製品と従来製品を同等の機能に換算して比較するため、従来製品のLCA結果には「機能係数」を乗じています。また、今までに開発した製品のLCA評価結果から環境負荷の特徴が明らかになっている場合は、環境負荷に著しく影響する項目に限って評価を実施している場合があります。

### LCAラベル掲示製品一覧

形名	製品名称
CENTUM CS3000 モデルシステム	生産制御システム 比較製品 CENTUM CS と比べて、CO2 排出量を約 11%削減
Prosafe-RS モデルシステム	安全計装システム 比較製品 ProSafe-PLC と比べて、CO2 排出量を約 23%削減
STARDOM モデルシステム	ネットワークベース生産システム 比較製品 CENTUM CS1000 と比べて、CO2 排出量を約 55%削減
EJA110J	差圧・圧力伝送器 (DPharp EJA-J シリーズ) 比較製品 EJA シリーズと比べて、CO2 排出量を約 30%削減
FA-M3 モデルシステム	レンジフリーコントローラ 比較製品 FA-M3 と比べて、CO2 排出量を約 66%削減
CSU-X1	共焦点スキャナユニット 比較製品 CSU22 + Filter Wheel と比べて、CO2 排出量を約 40%削減

2553A	プレシジョン DC キャリブレータ 比較製品 2553 と比べて、CO2 排出量を約 66%削減
2558A	交流標準電圧電流発生器 比較製品 2558 と比べて、CO2 排出量を約 50%削減
AQ 1200A/B/C	マルチフィールドテスタ OTDR AQ1200 比較製品 OTDR AQ7270 シリーズと比べて、CO2 排出量を約 40%削減
AQ2200-131	Grid TLS モジュール 比較製品 AQ2200 – 111 と比べて、CO2 排出量を約 10%削減
AQ2200-342	AQ2200-342 DUAL ATTN モジュール 比較製品 AQ2200-331 と比べて、CO2 排出量を約 45%削減
AQ6370D	AQ6370D 光スペクトラムアナライザ 比較製品 AQ6370C と比べて、CO2 排出量を約 17%削減
AQ7280	AQ7280 シリーズ OTDR 比較製品 AQ7270 と比べて、CO2 排出量を約 25%削減
DLM4038/ DLM4058	ミックスドシグナルオシロスコープ DLM4000 シリーズ 比較製品 DL7480 と比べて、CO2 排出量を約 25%削減
WT310/WT310HC WT332/WT333/	デジタルパワーメータ WT310/WT330 シリーズ 比較製品 WT210 と比べて、CO2 排出量を 18% 削減
WT3000E	WT3000E プレシジョンパワーアナライザ 比較製品 WT1600 と比べて、CO2 排出量を約 20%削減

## 地球温暖化防止対策

地球環境保全活動ならびに地球温暖化対策を強化するために「YOKOGAWAグループ グリーン化推進委員会」を設置し、YOKOGAWAグループ(国内)のCO2排出量削減目標について、2010年度～2014年度、2015年度～2019年度、2020年度のフェーズ毎に目標を設定し削減施策に取り組んでいます。CO2排出量削減施策として、生産ラインの改善、高効率冷暖房機器、インバータ・LED照明の導入、グリーン電力の利用等を実施しています。

オフィス・工場には、自社製品の省エネ支援システム「InfoEnergy」を導入しエネルギーデータの見える化を図ることで、CO2排出量を削減しています。

横河電機および横河マニュファクチャリングは、経団連が策定した「低炭素社会実行計画」(京都議定書第一約束期間後の産業界の取り組み方針)に参画しています。電機・電子業界の共通目標である生産プロセスのエネルギー効率改善(2020年に向け、エネルギー原単位改善率年平均1%)の達成に向け生産プロセスの改善などに取り組んでいます。

### YOKOGAWAグループ(国内)CO2排出量削減目標と実績

YOKOGAWAグループ(国内)は、2020年に向けたCO2排出量の削減目標を設定し、目標達成に向けて取り組んでいます。

2005年度～2007年度の排出量の年平均を基準値(56,560 t-CO2)とし、2020年の達成目標に向けて3つのフェーズごとに削減目標を定めています。

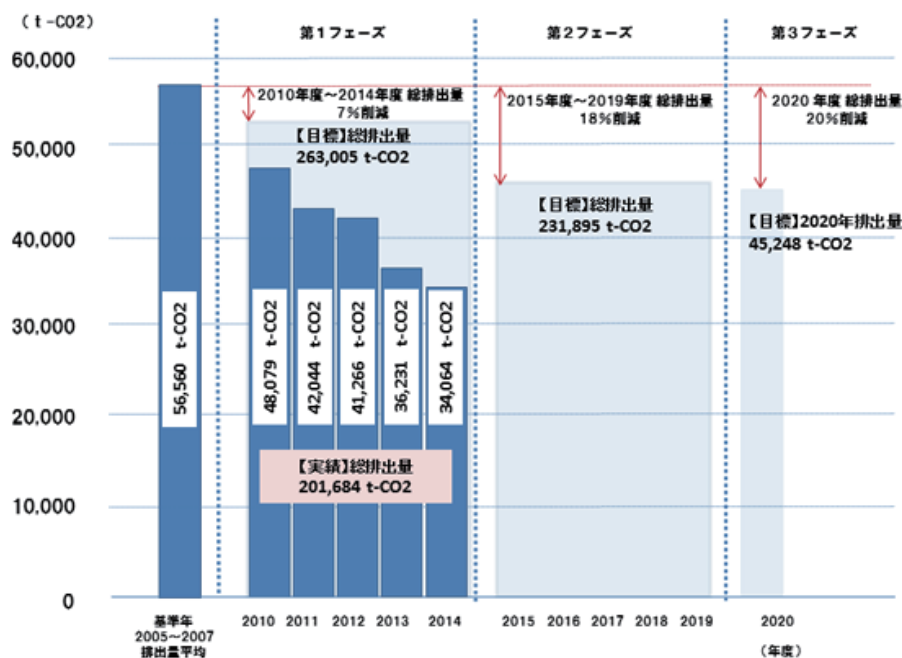
削減目標については、

- 2010年度～2014年度の総排出量で7%削減(263,005 t-CO2<年間平均52,601 t-CO2>)、
- 2015年度～2019年度の総排出量で18%削減(231,895 t-CO2<年間平均46,379 t-CO2>)、
- 2020年度には20%削減(45,248 t-CO2)

と定め、削減目標に向けた活動を推進しています。

2014年度のYOKOGAWAグループ(国内)のCO2排出量の実績は34,064t-CO2となりました。第1フェーズ(2010年度から2014年度)の目標263,005t-CO2(総排出量)に対して、201,684t-CO2の実績となり、第1フェーズの目標を達成しています。また、海外のグループ会社においては、各社自主的に数値目標を設定し目標に向けて取り組んでいます。

YOKOGAWAグループ(国内) CO2排出量削減目標と実績グラフ



## Scope3のCO2排出量

自社での燃料の使用や工業プロセスによる直接排出 (Scope1)、自社が購入した電気・熱の使用に伴うエネルギー起源の間接排出 (Scope2) の他にその他間接排出 (Scope3) についても、把握・算定を行っています。

区分	カテゴリー	排出量 (t-CO2)
上流	1 購入した商品・サービス	—
	2 資本財	—
	3 Scope1,2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	5,259
	4 輸送、配送	—
	5 事業から出る廃棄物	34
	6 出張	6,049
	7 雇用者の通勤	2,143
	8 リース資産	—
下流	9 輸送、配送	—
	10 販売した製品の加工	—
	11 販売した製品の使用	—
	12 販売した製品の廃棄	—
	13 リース資産	—
	14 フランチャイズ	—
	15 投資	—
合計		13,485

(対象範囲：横河電機、横河ソリューションサービス)

(-) は算定方法検討中または対象外  
「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」  
(環境省・経済産業省) に基づき算出

## 緑のカーテン普及活動

### 横河マニュファクチャリング 甲府工場

甲府市地球温暖化対策地域協議会の推進活動の一つである「緑のカーテン」の活動を継続して実施しています。

甲府工場のある国母工業団地の企業や団体と一体化して取り組み、山梨県(甲府市)の代表的な生産物であるぶどうを植え、緑のカーテンを作っています。



緑のカーテン普及活動

## 西梅田 打ち水プロジェクト

### 横河ソリューションサービス

大阪市・西梅田のブリーゼタワー近辺で行われた「西梅田 打ち水プロジェクト」に横河ソリューションサービスの社員が参加し、打ち水で街の気温を下げる活動に協力しました。



西梅田 打ち水プロジェクト

## 「グリーン電力証書」システムの導入

### 横河電機

横河電機本社ビルで使用する電力の一部については、「バイオマス発電」による「グリーン電力」(30万kWh/年)を使用しています。



バイオマス発電の  
「Green Power」マーク

## 化学物質と廃棄物の削減・省資源

YOKOGAWAグループは、地球環境や体に有害な化学物質を徹底管理しているほか、代替プロセスを開発・導入し、化学物質の使用量や廃棄物の削減、省資源に努めています。また、欧州の電気・電子製品に含有する化学物質を規制したRoHS指令や化学物質の登録・評価・認可・制限をするREACH規則に対応するため、これらの化学物質を削減及び適切に管理するための取り組みを進めています。

### PRTR対象物質

PRTR制度※の届け出対象物質(取扱量1,000kg/年以上)は表のような取扱量となりました。

※PRTR制度…Pollutant Release and Transfer Register (環境汚染物質排出・移動登録制度)。有害性のある化学物質の環境への排出量などの情報を公開することにより社会全体で化学物質の管理を行う制度。

### 2014年度 PRTRデータ

工場名	発生物質	取扱量 (kg)	排出量 (kg)				移動量 (kg)	
			大気	公共水域	土壌	埋立	下水道	事業所外
横河マニュファクチャリング 駒ヶ根事業所	ふっ化水素 およびその 水溶性塩	1,098	0	110	0	0	0	990
	塩化第二鉄	1,358	0	0	0	0	0	0
横河マニュファクチャリング 甲府事業所	トルエン	831	750	0	0	0	0	83
	塩化第二鉄	8,820	0	0	0	0	0	0
横河マニュファクチャリング 小峰事業所	トルエン	1,046	650	0	0	0	0	400



## 水資源に関する取り組み

YOKOGAWAグループは、企業活動の全てにおいて省資源・省エネルギーに取り組んでいます。水資源への取り組みについては、生産工程の改善による水使用量の削減や、オフィスで使用する水道水への節水システムの導入による水使用量削減に取り組んでいます。

### 中東や東南アジアでの取り組み

水資源の確保が深刻な課題になっている地域では、YOKOGAWAグループ各社は、水使用量のモニタリングや、代替水資源の確保などの施策により、水資源に関する取り組みを進めています。

### Yokogawa Electric Asia／Yokogawa Engineering Asia (シンガポール)

シンガポール政府による、飲用水資源の維持や代替水資源の活用などの施策を支援するため、Yokogawa Electric AsiaとYokogawa Engineering Asiaは次のような対策を行っています。

- シンガポール公共事業庁 (Public Utilities Board) のガイドラインを厳重に守り、水の過剰な使用を予防。
- 国家施策であるNEWater (リサイクル水) プロジェクトに参加し、空調システムに使われる水を通常の水道水からNEWaterに転換。
- 洗面台や水道設備に、節水装置を取り付け。
- 水の漏出を早期発見するために、水消費量の定期点検を実施。

### Yokogawa Middle East & Africa (バーレーン)

中東諸国では水不足が大きな問題になっており、Yokogawa Middle East & Africaも次のような取り組みにより、政府の水保全対策に協力しています。

- 社員一人あたり年間水使用量削減の目標値を設定し、進捗を管理。
- 飲用水の使用量を制限し、飲用以外の目的では一般の水道水を使用。
- 水保全も含まれるビルの安全認証を第三者機関から取得。
- HSE (Health, Safety and Environment) 巡視の際に水漏れも全ての施設で点検し、異常が発見された場合は迅速な是正措置と再発防止措置を実施。

### オフィスで使用する水道への節水システムの採用

#### 横河電機

横河電機本社では、オフィスで使用する水使用量を削減するために、順次節水システムを導入し省資源に取り組んでいます。

## 生物多様性への対応

YOKOGAWAグループ環境方針に則り、生物多様性保全のための取り組みをグループ各社で推進しています。

### 市民との協働による里山保全活動「東京グリーンシップ・アクション」

#### 横河電機

東京都の丘陵部の里山や雑木林を保全・再生し、生物多様性に寄与する取り組みである、東京都、地域NPO、企業による協働プログラム「東京グリーンシップ・アクション」に参加しています。



里山保全活動  
「東京グリーンシップ・アクション」

### 天竜川水質調査イベントへの参加

#### 横河電機 駒ヶ根事業所

長野県为天竜川周辺に工場を構える駒ヶ根事業所では、長野県テクノ財団が主催する「親子で水質調査」に社員とその家族が参加しています。このイベントは、「取り戻そう泳げる天竜川築こう循環型社会」をテーマとして開催され、参加した家族ごとに、簡易水質分析器「パックテスト」を用い、身近な河川の水質などの調査報告書を提出します。

調査日	天竜川(駒ヶ根)	天竜川(駒ヶ根)	天竜川(駒ヶ根)	天竜川(駒ヶ根)	調査結果	備考
①	11月17日	21	18	4	夏の間にごつていますが、それほどもくはなっています。	3
②	11月18日	21	20	5	思ったより汚れている。	—
③	11月19日	20	22	3	水質は思ったよりいいかなと感っていました。	—

水質調査の結果

## 武蔵野市の大木保護活動

### 横河電機

横河電機本社がある武蔵野市では、街にある大木約2,000本を保存樹木として管理・保護する活動「大木・シンボルツリー2000計画」を1994年から継続して行っています。横河電機の本社敷地にある大木は、約50本が保存樹木として指定され保護されています。



本社敷地にある保存樹木

## 天竜川環境ピクニックへの参加

### 横河電機 駒ヶ根事業所

(財)長野県テクノ財団が主催する長野県天竜川沿いの清掃活動に駒ヶ根事業所の社員とその家族が参加しました。

ごみ分別の意義や大切さを考えると共に天竜川の現状を体感し、循環型社会を目指す「環境美化キャンペーン」として開催されているイベントです。



天竜川環境ピクニックへの参加

## ボルネオ支援自動販売機の設置

### 横河ソリューションサービス 立川事業所／半導体サービスセンター

立川事業所にボルネオ支援自動販売機を設置しています。この自動販売機で飲料を購入した売上の一部が、特定非営利活動法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンに寄付され、ボルネオの熱帯雨林と野生動物を守る活動に役立てられています。



ボルネオ支援自動販売機

## ダム美化清掃

### 横河電機 金沢事業所

金沢市企業局が主催する内川ダム周辺の清掃活動に、金沢事業所の社員が参加しました。

このイベントは、「水環境の保全」を目的として、地域の大切な水道水源であり「水源保全区域」に指定されている内川ダム周辺の清掃活動です。



ダム美化清掃

## 金沢テクノの森づくり

### 横河電機 金沢事業所

金沢市にある「金沢テクノパーク内の森林」(約2ヘクタール)の森の保護活動に金沢事業所の社員が参加しました。

社会貢献、環境保全活動の一環として実施され、下草刈りや間伐、散策路の整備等の作業を行います。



金沢テクノの森づくり

## 公正な事業活動のために



全社員が法令および企業倫理を遵守し、企業行動指針に基づいてコンプライアンスの徹底に取り組んでいます。また、サプライチェーン全体でCSRを推進し、公平で公正な取引を実施しています。

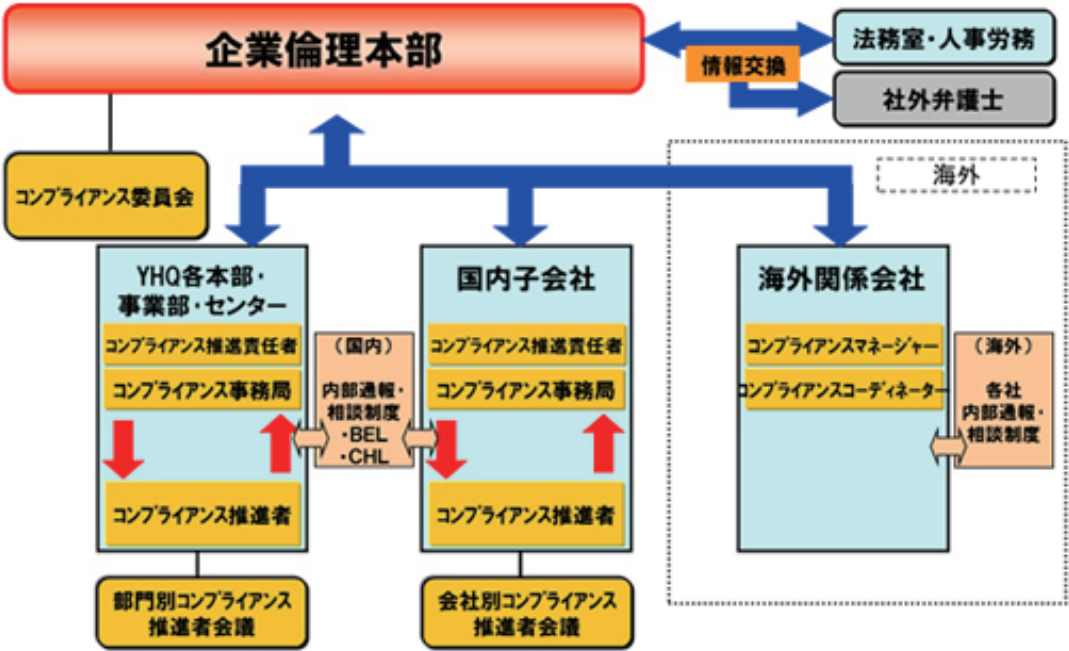
# コンプライアンス

YOKOGAWAは「コンプライアンス最優先」を礎とし、グループ全体でコンプライアンス経営を強化・徹底しています。不正や不祥事を未然に防止するために、「不正をしない風土」と「不正をさせない仕組み」の2本の柱を構築しており、健全で風通しの良い企業活動を推進しています。



## コンプライアンス推進体制

「不正をしない風土」と「不正をさせない仕組み」の構築のために、職場に密着したコンプライアンス推進体制をグローバルに整備しています。国内では職場の相談役でもあるコンプライアンス推進者がコンプライアンス意識の浸透・定着に向けた推進活動を展開しています。また、各組織のコンプライアンス事務局およびコンプライアンス推進者の代表者に定期開催の「コンプライアンス委員会」に参画してもらい、情報の共有化と活動の進捗管理を行っています。



## 贈収賄防止ガイドライン

国内および海外における公務員のみならず民間人を含めた贈収賄防止に関し、YOKOGAWAグループが事業活動を行う各国での贈収賄防止法を遵守し、贈収賄の防止と公正かつ適正な企業活動の実践を行なうために具体的なガイドラインを制定し、運用を行っています。

## 啓発活動の実施

YOKOGAWAは、「社員一人ひとりがコンプライアンスに関する意識・気づきのセンスを養い、クリーン、クリアでオープンな高い倫理感を持った風土の醸成を図る」ことを目的として、コンプライアンス研修や教育などの様々な啓発活動を実施しています。

## コンプライアンス研修・教育の実施

グループ全体へのコンプライアンス意識の浸透と定着を目指し、2014年度も国内・海外のグループ会社で、全社員を対象としたコンプライアンス研修を行ったほか、国内では、マネージャ昇格時、海外赴任時、新入社員の入社時などの機会でも、役割に応じた研修を行いました。

## コンプライアンスガイドラインの活用

企業行動規範を具体的に展開し、業務活動の中で遵守すべき事項をまとめたコンプライアンスガイドラインを定め、現在、英語、中国語やポルトガル語版も発行しています。2014年度も海外子会社のコンプライアンス推進者が、これらのガイドラインを用いて研修の強化を進めました。

## コンプライアンス・ニュースの発行

2ヶ月に1回、グループ社員向けに「コンプライアンス・ニュース」を発行し、セクシャル・ハラスメントや国際カルテルなど時節に合ったテーマを選び、社員のコンプライアンス意識向上を図っています。

## 不正行為事例集改訂版の発行

コンプライアンス違反の未然防止を目的として不正行為事例集を発行しています。毎年、グループ内外の新しい教訓的事例を追加した改訂版を発行し、全社員に公開しています。

## コンプライアンス週間の実施

国内グループの全社員を対象に「コンプライアンス・マインドの更なる浸透・定着」を図ることを目的とする「コンプライアンス週間」を実施し、eラーニングによる教育、コンプライアンススローガンの募集などの取り組みを行いました。

また、横河ソリューションサービスでは、コンプライアンス週間の時期に、グループ共通の取り組みに加えた自社独自の取り組みとして、「風通しの良い職場環境づくり」を目指して、より良いコミュニケーションの解説資料や、職場の風通し度合いの簡易診断チェックシートをイントラネットに公開しました。

## グローバル意識サーベイの実施

YOKOGAWAグループ全社員を対象に、毎年コンプライアンスに関する意識サーベイを実施しています。アンケート結果を職場・職位別にコンプライアンス意識の経時変化を見える化し、次年度の活動に結び付けています。

## 通報・相談窓口の運用

コンプライアンスに関わる問題点を早期に発見し、未然に防止するための通報・相談窓口を運用しています。国内は社内相談窓口と弁護士による社外相談窓口の2つの窓口を設置しています。社内相談窓口へは、実名、匿名のどちらでも通報・相談が可能です。社外相談窓口への通報・相談の場合、通報者情報が当社に知らされることはありません。社内、社外相談窓口とも、Eメール、電話、または紙文書での通報・相談が可能です。運用にあたっては守秘義務を遵守すると共に、調査マニュアルの活用を基本とし、迅速に対応処理しています。

## インサイダー取引禁止の徹底

インサイダー取引を未然に防ぐために、社規「インサイダー取引防止に関する規定」を定めているほか、「コンプライアンスガイドライン」の中でもインサイダー取引の禁止に関する項目を設けています。さらに、グループ全体で遵守体制を整備し、教育等によりインサイダー取引の禁止を徹底しています。

## 反社会的勢力排除の取り組み

YOKOGAWAは、「横河グループ企業行動規範」に則り、法令、条例、慣習その他すべての社会規範を遵守し、高い倫理観をもって事業活動を行うことを基本方針とし、以下の取り組みを行っています。

- 「YOKOGAWAグループ コンプライアンスガイドライン」に、「秩序・安全に脅威を与える反社会的勢力への対応」を記載
- コンプライアンス研修や社内報を通じて、不当要求に対する基本姿勢や対応にあたっての考え方などを社員に周知
- 東京都暴力団排除条例に対応して、「取引基本契約」に反社会的勢力排除条項を盛り込んだほか、既存のお取引先様、請負業者、お客様とも「反社会的勢力の排除に関する覚書」を締結



## お取引先様との関わり(サプライチェーン管理)

### 内部統制の一環として管理体制を整備

YOKOGAWAは、お客様とお取引先様との関わりを含む業務プロセス全般について、YOKOGAWAグループ内部統制の一環として管理体制を整えています。サプライチェーンの一環である購買プロセスに関しては、企業理念や企業行動規範に基づいた「グループ購買規程」を定め、公平で公正な取引の実施を定めています。事業を行う国と地域の法令を遵守した取引を行い、環境保全や人権に配慮したサプライチェーンの展開に注力し、また、紛争鉱物問題にも取り組んでいます。

JEITA\*のガイドラインに準拠したYOKOGAWAグループサプライチェーンCSRガイドラインを作成し、国内外のお取引先様に公開するとともに、購買基本方針を3カ条にまとめ日常業務の指針にしています。サプライチェーンCSRガイドライン制定時に、主要なお取引先様200社にガイドラインを配布し、アンケート調査を実施しました。また、各年度品質計画に基づき主要なお取引先様を訪問し、品質評価とともにサプライチェーンCSRガイドラインについてのモニタリングを実施しています。

### 購買基本方針3カ条

- クリーン、クリアでオープンな企業風土を作り、社会から信頼される企業としてお天道様に恥じない購買活動を行う。
- グループ内の取り組みにとどまらず、お取引先様を含むサプライチェーン全体でCSRに配慮した調達活動を推進する。
- お取引先様にはYOKOGAWAのCSRガイドラインに合致した活動にご賛同いただく。

### お取引先様とのパートナーシップの強化

当社は、定期的に主要なお取引先様の経営層の皆様と交流を行い、パートナーシップの強化に努めています。

毎年度、「購買方針説明会」を開催し、当社の経営方針、事業計画、購買戦略などについて説明しています。

また、購買部門の主催で「部品展示会」や「技術セミナー」を開催し、お取引先様の取扱商品、市場動向、および部品動向などを当社グループの各製品開発部署へ紹介する場として活用しています。



購買方針説明会

## コンプライアンス調達の強化

当社は、国内グループ会社を対象に購買プロセスの関連法規である“下請代金支払遅延等防止法”（下請法）の教育を定期的実施するとともに、取引基本契約書にコンプライアンス条項を明記し、コンプライアンス調達の強化を図っています。その一環として、反社会的勢力排除に向け、お取引先様と連携を深め、反社会的勢力との関わりを遮断するための取り組みを行っています。

コンプライアンスに違反、または、その疑いがあると、お取引先様がお気づきになられた場合の通報窓口として“ヘルプライン”を設置しています。

## 下請法の遵守

下請法を遵守するため、社外講習会の受講やeラーニングの仕組みを通じ、購買関係者を対象に自社オリジナルテキストによる学習や受講者の理解度確認用の簡易試験を定期的実施し意識向上に努めています。また、各部署に責任者を設置し下請法に関する情報の共有を図り遵守体制を構築しているとともに、お取引先様からの通報窓口を設置しています。

## グリーン調達の推進

企業活動のあらゆる面で、持続可能な社会の構築に貢献するという環境経営の考え方のもと、「グリーン調達ガイドライン」を作成し、グリーン調達活動を推進しています。製品含有化学物質管理推進体制を構築し、資材・部品に含有される化学物質について調査管理しています。

## 紛争鉱物問題に関する取り組み

コンゴ民主共和国またはその周辺諸国から産出される一部の鉱物（錫、タンタル、タングステン、金）は、サプライチェーンを経由して流通することで、人権侵害、暴力行為などの不正を行う武装勢力の資金源となっている場合があり、紛争鉱物と呼ばれています。

YOKOGAWAグループは、これら武装勢力の資金源を断つことをサプライチェーン全体で取り組むべき課題と認識し、私たちの製品に紛争鉱物を使用しないコンフリクトフリーを目指します。

この課題に対応するため、YOKOGAWAグループでは、以下の取組みを進めてきました。

- 2011年に関係部署で体制を整え、対応を進めてきています。
- 業界団体であるJEITA(電子情報技術産業協会)の「責任ある鉱物調達検討会」にメンバーとして参加し、企業間の連携や最新情報の把握に努めています。
- 2013年以降、サプライヤ各社にご協力を頂きながら、一部の製品から紛争鉱物の使用に関する調査を進めています。また、当社が直接調達している金、タンタルについては、2013年以降の年次調査でコンフリクトフリーであることを確認しています。
- 2013年7月には、「YOKOGAWAグループサプライチェーンCSRガイドライン」に紛争鉱物に関する要望を追加し、当社ウェブサイトで公開しました。

また、今後、YOKOGAWAグループは以下の取組みをまいります。

- 製品に使用されている部品・加工品について、お客様のご要望などを踏まえながら、順次、調査を進めていきます。
- 調査の結果、武装勢力の資金源となっている懸念が判明した場合、ただちにその使用回避に向けた取組みを進めます。

今後も、YOKOGAWAグループは責任ある鉱物調達に最大限努力をまいります。

\*JEITA (Japan Electronics and Information Technology Industries Association)  
一般社団法人電子情報技術産業協会

## 株主・投資家の皆様との関わり

株主・投資家の皆様との関わり(コミュニケーション)については、「IR情報」および「[アニュアルレポート](#)」でご紹介しています。

- ▶ [IR情報](#)
- ▶ [アニュアルレポート](#)

## お客様とともに



中期経営計画「Transformation 2017」においても、お客様との関係性を大切にすることを重視しています。つねに品質・信頼性・情報セキュリティの向上を追求し、お客様の要望を把握してより満足いただくための活動を展開しています。

## お客様満足・品質

### お客様満足度向上のための活動

世界各国の拠点において、お客様の満足度を高めるための活動をしています。

横河電機(日本)では、2008年度から日本国内の当社トレーニングセンターで製品講習会を受講した全てのお客様を対象に、製品やサービスに対する満足度のアンケート調査を行っています。2014年度は1,198件のアンケートを回収し、結果を集計・分析するとともに、全社員が全てのコメントをイントラネット上で共有し、製品の機能改善やサービスの向上に役立てています。

その他、国内外のグループ各社で、Eメールによる調査、訪問面談、アンケート郵送、製品セミナーでの対話などを通じてお客様のご意見やご要望を把握し、より満足いただける製品やサービスの提供に努めています。

### 品質保証

YOKOGAWAは、創業以来「品質第一」をお客様満足の基本とし、徹底した品質マネジメントを実行してきました。国内および海外の主要関連会社でISO9001の認証を取得しており、世界同一品質を目指して取り組んでいます。

また、常にお客様の声に耳を傾け、質の高い製品・ソリューションを提供し、お客様とともに課題解決と価値の実現を目指します。

### 品質保証の基本方針

1. 創業の精神である「品質第一」に基づく顧客重視、および経営品質向上による「健全で利益ある経営」の実現を目的とする品質マネジメントを実行する。
2. 法令・規制要求事項および顧客要求事項を満たす製品を提供する。
3. 国際規格ISO9001の要求事項に適合する適正水準の品質マネジメントを確立し、実行し、その有効性を継続的に改善する。
4. すべての組織および要員の成果によって顧客満足を向上する。そのために、一人ひとりが「品質第一の心」をもって良質の仕事を行う。
5. 組織の長は、担当業務品質に直接的責任を負う。これには資源が使用できることを確実にすることを含む。

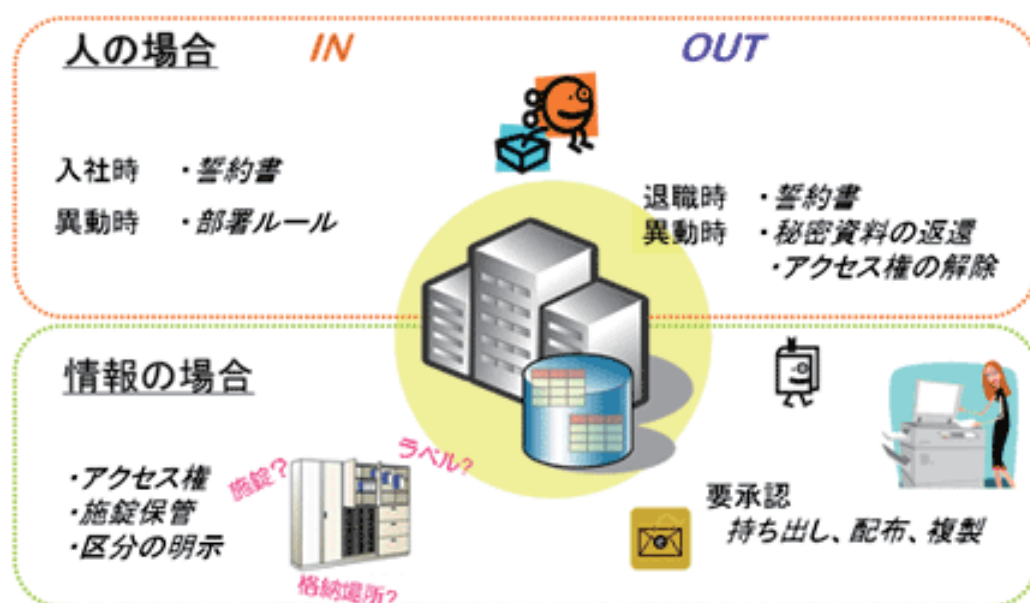
## 情報セキュリティ

お客様と一体となってソリューションを提供するYOKOGAWA。

ステークホルダーの皆様から信頼をいただいております。大切な情報を守るため、人・物・ITの観点から情報セキュリティ対策に取り組んでいます。

### 【人】情報セキュリティ教育の実施

情報を守るためには、手にした情報をどのように取り扱うか、社員一人ひとりの意識が重要です。YOKOGAWAで共通の認識を持ち、知識をアップデートしていくため、eラーニングを活用した全社教育を毎年実施。「教育は最初が肝心」との思いから、新入社員やキャリア採用者への入社時教育、異動者への部内ルールへの導入教育など、実施内容と実績を情報セキュリティ監査で確認しています。



情報セキュリティ教育テキストより抜粋

また、より実践的な内容として、標的型メール攻撃対応に関する教育・訓練や、ライン・マネージャ向けの情報セキュリティ教育も行っています。

### 【物】環境をたゆまず改良し続ける

情報が置かれている環境では、防犯、防災とあらゆるセキュリティに目を向ける必要があります。既存の施設に絶えず目を配りながら、「時がたてば風化するのも常」と捉え、いま必要とされる新しい設備の導入に努めています。

高度なセキュリティを必要とする研究開発施設等では、虹彩認証による入退室管理や社員証によるロック機能付キャビネットの導入など、積極的に新しい仕組みを採用し、さまざまな対策を実施しています。



社員証によるロック機能付キャビネット

## 【IT】見えないところで守っていく

情報セキュリティ対策を行っていく上で、何よりも大切なのは「人」です。「うっかり漏洩」「知らないから誤用」といった人間の過ちを、ITの仕組みで守っていきます。

### 1. PCの情報漏洩対策

ウイルス対策はもとより、生体認証やデータの暗号化などを施し、より安全な環境を設定しています。

### 2. 迷惑メール対策

迷惑メールは単に迷惑だけでなく、情報漏洩やウイルス感染につながる悪質なものが含まれている可能性があるため、迷惑メール除去システムを強化しています。

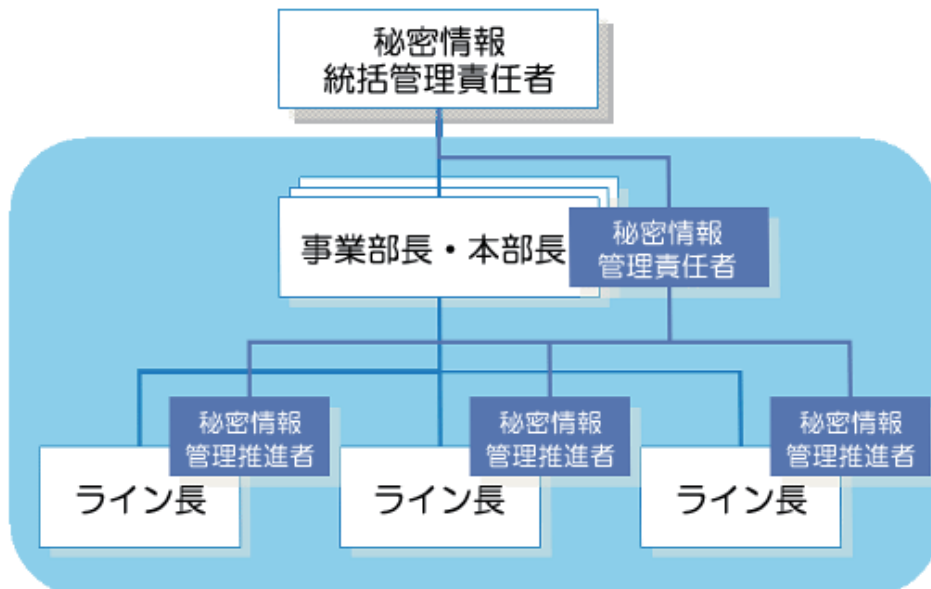
### 3. ネットワーク接続機器管理

社内での不正アクセスによる情報漏洩防止を目的として、未登録のPCおよび関連機器をネットワークから完全遮断しています。

## 組織

YOKOGAWAグループでは、ISO27001の考え方をベースに情報セキュリティ活動を展開し、方針や施策は秘密情報統括管理責任者から各事業部／本部および関係会社に通達されます。運用がルール通りに行なわれているか事務局による実地確認などで把握し、必要な改善をはかっています。

また、各ラインの情報セキュリティを推進する組織としてYOKOGAWAの各事業部・本部・関係会社に情報セキュリティ組織を設置。円滑な情報セキュリティ推進活動の鍵となってPDCAサイクルをまわしています。



情報セキュリティ組織



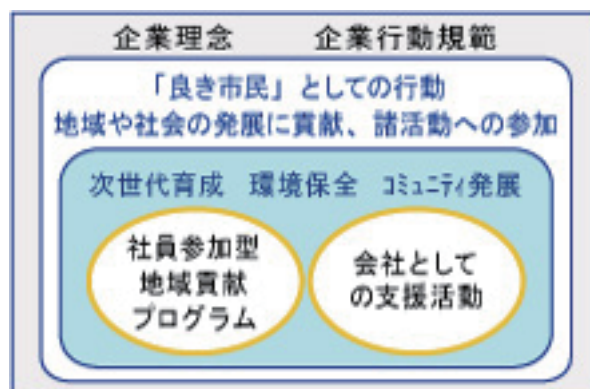
## コミュニティとともに

YOKOGAWAグループは、より豊かな人間社会の実現をめざし、地球環境保全や社会的な課題の解決に取り組んでいます。

### YOKOGAWAの地域貢献活動

YOKOGAWAは、企業も社会の一員であることをよく自覚し、「良き市民」として地域と調和しています。事業を通じて社会に貢献するだけでなく、幅広い地域貢献活動を推進しています。YOKOGAWAは、事業を展開する世界のあらゆる国や地域で、地域や社会の共通の目標の達成に協力し、その発展に貢献します。

また、社員が「良き市民」として地域貢献活動に参加することを支援し、地域コミュニティの人材育成、環境保全活動を始め、社員が有する様々なスキルや能力を活用できるボランティアプログラムを用意します。



社会的課題の解決、  
持続可能な社会の実現に貢献

### グループ各社の地域貢献活動

グループ各社の地域貢献活動をご紹介します。



## 日本での地域貢献活動

### 次世代育成支援の取り組み

---

小学生向けの理科教室など、次世代を担う人材の育成を支援する活動を行っています。  
地域社会の一員として、地域の子育てや学校教育のサポート、障害のある児童や生徒の自立や社会参加の支援を行っています。

### 外部機関との協働による社会的課題解決への取り組み

---

様々な社会的課題に対して、YOKOGAWAはグローバル市場でビジネスを行う企業としての責任を果たしていきます。

## 次世代育成支援の取り組み

地域社会の一員として、次世代を担う人材の育成を支援する活動を行っています。

### YOKOGAWA理科教室

YOKOGAWAは計測・制御・情報をテーマに技術力の高さを基盤として事業を推進していることから、小学生向けの理科教育を支援する「YOKOGAWA理科教室」を実施しています。

これまでのプログラム一覧

プログラム	主な内容
「光の鑑定士になろう」	照度計の工作と光の明るさの測定
「光で通信してみよう」	光トランシーバーの工作と光通信の実験
「電波をつかまえろ!」	電池が不要なゲルマニウムラジオの工作とラジオ放送の試聴
「温度調査隊になろう」	放射温度計の工作と「触らずに測る温度」の測定
「ひかりの秘密をさぐれ!」	「虹色懐中電灯」の工作と三原色を使った色づくりの実験
「磁石の力で電気をはかる」	電磁石を応用するメーターの工作と電池残量測定

「YOKOGAWA理科教室」は2006年にスタートしました。現在、東京都を中心に年数回開催しています。

理科教室のテーマは、光、電気、電波など、YOKOGAWAを支える基礎技術に関連したものとなっています。講師や工作の個別指導は社員がボランティアでつとめています。まず社員ボランティアがテーマに応じて光や電気の仕組みを説明した後、参加児童の皆さんにハンダ付けも含めて工作をしてもらいます。その後、社員が「技術の仕事」を紹介し、技術に興味を持つことを通して、工夫する事や考える事の重要さも知ってもらいます。子どもたちと触れ合う中で、社員自身の成長にも繋がっています。

このような活動を通じて地域との交流を深め、また科学や技術に興味を持つ人材の育成に貢献していきます。未来の地球を支える、科学や技術に興味を持つ人材が育つことが当社の願いです。

- 2014 年度開催実績 -	開催地	プログラム
2014年7月19日	東京都武蔵野市および三鷹市	「電波をつかまえろ!」
2014年8月20日	石川県金沢市	「光で通信してみよう!」
2015年3月7日	東京都武蔵野市および三鷹市	「電波をつかまえろ!」



理科教室のようす

#### 児童の皆さんからのコメント：

- もっと難しい工作もしてみたい。
- また参加して実験をしてみたい。
- ラジオは初めて作った。楽しかった。

#### 保護者の皆さんからのコメント：

- 将来のきっかけになれば良いと思う。
- 身近な場所にある企業の仕事を知ることができて良かった。
- 先生や親以外の大人と触れ合うのも良い経験になると思う。

#### ボランティア社員からのコメント：

- 子供の嬉しそうな顔を見ると嬉しい。
- 子供達が楽しんでくれると、自分も楽しい。

### むさしのサイエンスフェスタへの参加

武蔵野市が毎年開催する「むさしのサイエンスフェスタ」に、例年参加しています。このイベントは市内の小・中学校の教諭や企業、ボランティア団体などがそれぞれ実験ブースを出展する理科・科学実験の総合イベントで、毎回1000名ほどの来場者があります。

当社ブースのテーマは「声の秘密を探ろう」。手作りのマイクアンプとオシロスコープを使用し、自分の声がどのように見えるかを観察してもらいました。子どもたちは自分の声の音の強弱や音階に応じて変化する波形に興味深そうに見入っていました。ボランティアスタッフとして参加した当社の社員も、オシロを使って観察する指導を通して一緒に楽しむことができました。



自分の声をマイクアンプを通し  
オシロで観察する

## 横河ファウンドリーでの見学／実習受け入れ

YOKOGAWAは、知的障害のある方の雇用を目的に横河ファウンドリー(株)を1999年に設立しました。横河ファウンドリーでは、見学者や実習生を受け入れており、次世代育成や、各都道府県教育庁の障害者就労支援施策に貢献しています。

2014年度は、26 団体108名の方が横河ファウンドリーを見学に訪れました。特別支援学校などからの実習生は、6校8名の方を受け入れました。

## 保育園や小学校などの行事への支援

### 保育園や小学校で演奏会

同好会管弦楽部「アンサンブル横河」は、保育園や小学校などから要請を受け、児童・生徒、患者、看護者の皆様の前で演奏会を開催しました。

- ー2014年6月10日  
ポピズナーサリー武蔵野にて保育園児を対象に開催
- ー2014年9月27日  
東京都調布市立多摩川小学校にて小学生を対象に開催
- ー2015年1月24日  
東邦大学看護学部で開催



ポピズナーサリー武蔵野での演奏会

### 高齢者施設で小学生とともにバスケットボール交流

2014年10月4日 同好会バスケットボール部は、公益財団法人さわやか福祉財団からの要請をうけ、武蔵野市の特別養護老人ホームで、東京都世田谷区の小学生「給田シューティングスターズ」の皆さんとともに、バスケットボール遊びを楽しみました。



特別養護老人ホームでのバスケット交流

## 特別支援学校の授業・行事・余暇活動への支援

YOKOGAWAは、地域教育推進ネットワーク東京都協議会の会員として、特別支援学校の授業の支援や、東京都の「放課後子供教室」受託事業で、特別支援学校都立あきる野学園のPTAが中心となって活動している「あきるのクラブ※」をはじめとする、特別支援学校の余暇活動を支援しています。社員はボランティアとして障害のある子どもたちと交流し、「良き市民」としての意識を高めています。

-2014年度開催実績-

	支援先	内容	参加ボランティア
2014年6月21日	あきるのクラブ	外国語で遊ぼう!	社員ボランティア
2014年6月21日	あきるのクラブ	華を飾ろう!	同好会華道部員
2014年8月23日	あきるのクラブ	茶道体験教室	同好会茶道部員
2014年7月25日 ～8月26日のうち 計5日間	都立七生特別支援学校	地域へのプール開放時に児童・生徒に水泳を指導	同好会水泳部員
2014年10月18日	あきるのクラブ	東京都立小峰公園ハイキング	同好会山岳部員 横河武蔵野アトラスターズ
2014年10月24日	東京都立あきる野学園	交流イベントで演奏会	同好会管弦楽部
2015年1月24日 および2月21日	あきるのクラブ	ヒップホップダンス	社員ボランティア
2014年シーズン公式戦	東京都内の特別支援学校	日本フットボールリーグ公式戦の観戦に招待	横河武蔵野フットボールクラブ
2014年12月20日	あきるのクラブ	交流イベントでキックターゲットおよびスピードガンによるキック力測定	横河武蔵野フットボールクラブ
2015年1月24日	あきるのクラブ	サッカーボールで遊ぼう!	横河武蔵野フットボールクラブ



外国語で遊ぼう!



プール開放支援



ヒップホップダンス



華を飾ろう!



小峰公園ハイキング



茶道体験教室

**児童の皆さんからのコメント：**

- 自分でお茶をたてることができたのでうれしかった。
- 来年もキレイなお花と一緒に来てください。
- 泳ぎがとても上手になってたくさんほめられた。楽しかった。

**ボランティア社員からのコメント：**

- 我々自身も、子供たちの笑顔やはしゃぐ姿に感激しました。
- スポーツっていいなと子供たちが思ってくれたら本当にうれしい限りです。
- 今後も依頼があれば、より生徒の気持ちに沿える活動にしていきたいと思います。

**「あきるのクラブ」について**

「あきるのクラブ」は、障害のある子どもたちの豊かな生活と生涯学習につながる地域活動・余暇活動の企画・運営に取り組み、家族を含めて支援する組織で、都立あきる野学園の保護者が中心となり、2004年6月に活動を開始しました。

「選べるプログラム」「在校生に加え地域の児童・生徒・成人も対象とする」「地域生活のためのネットワークづくり」に留意した取り組みで、2004年度から文部科学省や東京都などから様々な事業を受託しています。

## 外部機関との協働による社会的課題解決の取り組み

当社は、外部機関との協働によって、深刻化する社会的課題や地域活性化のための活動に積極的に取り組んでいます。

### 地域NPO、市民との協働による里山保全活動「東京グリーンシップ・アクション」

YOKOGAWAは、東京都の丘陵部の里山や雑木林を保全・再生し、生物多様性に寄与する取り組みである、東京都、地域NPO、企業の協働プログラム「東京グリーンシップ・アクション」に、2009年度から参加しています。

活動の対象としている八王子市館町緑地保全地域(面積24,392平方メートル)は、東京都八王子市の多摩丘陵に位置し、近辺には住宅地もある身近な保全地域です。この保全地域には、蛍が自生するきれいな川が流れており、地域のボランティア団体が下草刈や低木の間伐などを定期的に行ない、自然環境の再生に努めています。

かつてこの地域は、手入れの行き届いた豊かな里山でしたが、植栽、間伐、伐採などの手入れをしなかったために、放置された山林となっていました。そこで、「東京グリーンシップ・アクション」では、草刈、枯木の伐採や整理、そして継続的な植樹活動を通じて、美しい雑木林のある丘陵地の風景を保全するとともに、豊かな生物相を育成することを目指しています。

YOKOGAWAは、昨年度に引き続き2014年も、「東京グリーンシップ・アクション」に参加しました。NPO法人緑サポート八王子の皆さんと共に、当社グループの社員およびその家族が参加し、生い茂った草を刈ったり、間伐のため大木を切り倒したりしました。



東京グリーンシップ・アクション

### 地域社会との防災協力

当社と当社の本社所在地である武蔵野市は、大規模な災害が発生した場合の協力体制について1996年に覚書を交わし、市民の安全確保に向け当社が武蔵野市に協力することを取り決めています。災害時には当社の施設の一部を市民に開放し、水や備蓄品を提供するなどの対応がとられます。2014年1月には、横河ソリューションサービスも武蔵野市との間で、災害時における協力に関して協定書を締結しました。

また、2006年には武蔵野消防署と震災時の支援活動について協定を締結しています。震災が起きた場合、当社は可能な範囲で武蔵野消防署と協力し、消火活動や疾病者の救援にあたります。また、定期的に合同で防災訓練を実施しています。



## 事業所周辺の地域清掃活動への参加

企業理念である「良き市民」を実践するために、グループ各社では自治体が主催する清掃活動に継続的に参加したり、自主的に事業所周辺の清掃を行ったりしています。地域の美化・環境保全に貢献するとともに、地域社会との交流を深めています。

- 横河電機  
武蔵野市が年2回行っている市内主要駅前清掃活動に、毎回50名前後の社員とその家族が参加。
- 横河ソリューションサービス  
国内各事業所のある地域で清掃活動に参加。2014年度はのべ参加人数が231名となり、2013年度の171名から大幅に増加。
- 横河マニュファクチャリング  
国内各事業所の周辺や近隣駅前清掃活動を実施したほか、鎌田川桜並木の除草作業を実施。また、立川市「秋の楽市」やあきる野市の清掃活動にも参加。

## 障害のある方の就労支援

YOKOGAWAは、障害のある方の就労に関して自社での雇用を促進するだけでなく、地域社会における就労の機会を拡大するため、NPO法人 日本セルフセンター等と連携して次のような活動をしています。

### 当社の甲府事業所で使用するウエス（機械整備用の布）を障害者就労支援事業所から購入

横河マニュファクチャリング甲府工場では、2010年4月より、障害のある方が働く就労支援事業者から、1ヶ月あたり150kgのウエス（工場の機械類の油や不純物などの汚れを拭き取る布）を購入しています。

現在購入しているウエスは、本来捨てられる古着・古布を再利用したリユース・ウエスで、生産時に資源やエネルギーを必要とせず、CO2を排出することはありません。

リユース・ウエス購入は、障害のある方の就労につながる取り組みの一環であるとともに、地球環境保全にも寄与しています。



購入したウエスは主にモップにつけて使います



社会福祉法人 南風荘 セルフ藤山（障害者就労継続支援 B 型）におけるウエス製造風景

## 定時株主総会の招集通知および決議通知用封筒の製作を福祉工場に委託

2010年度定時株主総会より、招集通知用の封筒など、株式関係書類送付用封筒の製作を、障害のある方が働く福祉工場に委託しています。



障害のある方が働く福祉工場に委託して作成した、  
定時株主総会用の封筒



社会福祉法人東京コロニーが運営している  
東京都葛飾福祉工場における封筒制作風景

また、2012年度の定時株主総会からは、東日本大震災の被災地である宮城県内の障害のある方が働く10の事業所で結成された「～ひと箱で宮城が好きになる～プロジェクト」で製造したクッキーを、株主様にお持ち帰りいただきました。



NPO 法人麦の会が運営しているコッペ (障害者就労継続支援 B 型) におけるクッキー製造風景

## 代金の一部が障害者就労支援に寄付される、福祉自販機を設置

2008年9月、YOKOGAWAは、東京都武蔵野市の構内および近隣地域に、SELP (Support of Employment, Living and Participation) 自動販売機を1台ずつ設置しました。2009年度より、東京都あきる野市、東京都青梅市、東京都立川市、山梨県甲府市、山梨県上野原市の各地域で、当社グループの事業所構内にもSELP自販機を設置しています。この自動販売機で飲み物を購入することにより、代金の一部がNPO法人日本セルフセンターを経由して障害のある方の就労支援に活用されます。

本社構内では、通常の自動販売機と並べてSELP自動販売機を設置しています。SELP自動販売機の売り上げが、以前、同じ場所にあった通常の自動販売機と比べて約3割増えたことは、多くの社員が社会貢献を意識して行動していることの現れと言えます。

2008年度から2014年度までの累計寄付金額は2,105,752円になりました。



本社構内に設置した  
SELP 自動販売機

### 日本セルフセンターについて

障害者の自立支援を目的に、障害者の職業訓練や就労施設の運営といった、さまざまな福祉事業を展開しています。

▶ [NPO 法人 日本セルフセンター](#)

## 古本・CDのリサイクルを通じた途上国の教育支援

2009年11月から、YOKOGAWAは、不要になった本、CD、DVDなどを、アフガニスタンやスーダンなどにおける教育支援事業に役立てる社会貢献プログラム「Book Magic」に参加しています。東京都武蔵野市と山梨県甲府市の事業所を合わせて50ヶ所に回収BOXを常設し、2015年3月までに15,339点が集まり、296,852円の寄付を行いました。

▶ [Book Magic公式サイト](#) (特定非営利活動法人ジェン)

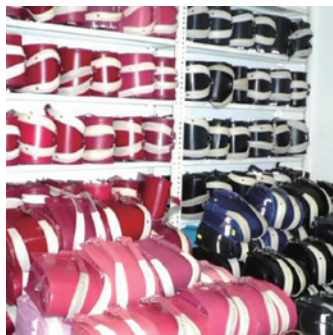


衛生教育をうけるヨルダンに避難してきた  
シリアの子どもたち

## ランドセルは海を越えて

YOKOGAWAは、2008年度から(株)クラレが主催する「ランドセルは海を越えて」キャンペーン活動に参加しています。

2014年度も、識字率が著しく低いアフガニスタンの子どもたちへの教育支援を目的に、社員から思い出のつまった使用済みのランドセルと不要になった文房具を収集し送付しました。過去7年間で社員から寄付されたランドセルは454個になりました。



社員から提供されたランドセルや文房具



ランドセルを受け取り喜ぶ子どもたち

## 社員食堂での募金付きヘルシーメニュー

横河電機本社の社員食堂では、2009年度より、毎週月曜日に募金付きの特別メニュー、「ハートフル・ヘルシー・メニュー」を提供しています。このメニューを購入すると、1食につき20円の寄付金が、国際協力NGOジョイセフを通じて妊産婦死亡率の課題が深刻なアフガニスタンなどの開発途上国へ贈られ、農作物の苗やビタミン剤、医薬品の提供、また乳幼児の予防接種を実施するための資金となります。

メニューの内容はカロリーや栄養バランスに配慮したものとなっており、社員の健康増進に役立つと共に、発展途上国の食料自給や自活、妊婦さんおよび乳幼児の健康増進を支援しています。

2009年4月から活動を開始し、2015年3月までに11,968食のハートフル・ヘルシー・メニューを販売し、オレンジの苗517本分および妊産婦2,235人分の葉酸やマルチビタミンなどの栄養補給に相当する寄付を行いました。



ハートフル・ヘルシー・メニュー



乳児の予防接種

## 献血活動

横河電機は1966年から、東京都赤十字血液センターに協力して、積極的に献血活動を行っています。献血は、社員に比較的参加しやすい社会貢献活動として捉えており、今までに延べ約4万人が参加しています。

当社が長年にわたり献血活動に取り組んできたことに対して、2003年に日本赤十字社から「銀色有功章」を受賞しています。今後も献血活動を継続することで、社員に対する社会貢献の機会を提供するとともに、輸血を必要とする医療活動に貢献していきます。



診療センターでの献血の様子

## インドネシアの母子保健改善への取り組み(国連ミレニアム開発目標の達成に向けて)

当社は、2008年以来、インドネシア国セラン県において、(認定NPO法人)ピープルズ・ホープ・ジャパンを通じて、母子健康改善活動を続けています。セラン県は、首都ジャカルタの西方80kmにある地域で、貧しい村々が点在しています。その地域の大きな問題は、出産時のトラブルで命を落とす妊産婦や赤ちゃんが非常に多いこと、5才未満の幼児の栄養状態が悪いことです。

このような活動は、国連ミレニアム開発目標の達成に貢献しています。

ミレニアム開発目標	
ゴール4 (乳幼児死亡率の削減)	2015年までに5歳未満児の死亡率を1990年の水準の3分の1に削減する。
ゴール5 (妊産婦の健康の改善)	2015年までに妊産婦の死亡率を1990年の水準の4分の1に削減する。

母子保健改善への取り組みについては、(認定NPO法人)ピープルズ・ホープ・ジャパンのウェブサイトでご紹介しております。

▶ [認定NPO法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン](#)

## 北米・南米での地域貢献活動

### 教育、社会福祉などへの支援(米国)

Yokogawa Corporation of America (YCA) は、教育、社会福祉、健康などの分野で寄付を行い、「良き市民」として地域貢献を行っています。その一部は社員と会社のマッチングギフトとして行いました。

### March of Dimesへの支援(米国)

YCA は母子の医療・健康をサポートする非営利財団March of Dimesが主催するチャリティーイベント「March for babies」に毎年参加しています。このイベントは新生児障害の防止などを支援するもので、全米で行われています。

YCAの社員とその家族がチャリティー・ウォークに参加するとともに、集まった募金をMarch of Dimesに寄付いたしました。

### American Heart Associationへの支援(米国)

YCA は米国心臓協会が主催するチャリティーイベント「Heart Walk」と「Wear Red Day」に参加しました。両イベントとも心臓病や脳卒中の予防を推進するイベントで、YCAの社員は心臓病予防の大切さをアピールしたり、ウォーキングを楽しみながらイベントをサポートし、集まった募金を寄付しました。



Heart Walk



Wear Red Day

### 地域の子供達を支援(ブラジル)

Yokogawa America do Sul Ltda. (YSA) は、経済的支援が必要な子供たちのための団体に対して、クリスマスプレゼントを贈ったり、食料品や衛生・清掃用品を贈る活動を行いました。



食料品などを贈呈

## アジアでの地域貢献活動

### 職場でのマッサージイベントを実施(シンガポール)

Yokogawa Engineering Asia Pte. Ltd. (YEA)は、シンガポール視覚障害者協会(SAVH)と連携し、派遣マッサージを社内で受けられるイベントを実施しました。SAVHがマッサージ資格を持つ視覚障害者をYEAに派遣し、マッサージを希望する80名の社員が、頭と肩のマッサージを有料で20分受けました。マッサージ師の方々には経済的支援となり、社員にとってはリラクゼーションとなるイベントになりました。

### 「パケット・オブ・ライス」活動を実施(シンガポール)

YEAは、地域の高齢者に食料品などを届ける「パケット・オブ・ライス」活動を実施しました。届け先の高齢者は一人住まいで低所得の方が多く、ボランティアで参加したYEA社員は食事や食料品を袋に詰め、対象地区の高齢者宅にお届けしました。



### 地域での環境保全イベント(中国)

横河電機(蘇州)有限公司(YCS)は地域での環境イベントを行い、地域の方々と関わりながら環境保全活動を行いました。

- 社員ボランティアが地域のフリーマーケットに参加し、エコバッグ使用を勧めるポスターを掲示したほか、訪れた方にエコバッグを配り、多くの方の賛同を得ました。
- 社員ボランティアが先生となって、地域の子供達に環境保全実践についての教室を行いました。
- 社員ボランティアが、蘇州工業園区の金鷄湖をめぐるサイクリング環境保護活動を行いました。
- サイクリングをスポーツとして楽しみながら、環境汚染の削減やエネルギー使用削減についてPRしました。

### 地域の子供達の教育や生活を支援(中国)

YCSは子供たちの教育や生活を支援するためのイベントなどを行いました。

- 社員ボランティアが蘇州社会福利総院児童福利院を訪問し、子供たちに暑い夏を気楽に過ごしてもらう為、扇風機と夏季生活用品を福利院に寄贈しました。
- 社員ボランティアが、蘇州福利院の子供達を動物園へ連れて見物に行きました。
- 社員ボランティアが、地域の子供達の夏休みに合わせて、手作り工作教室を開催しました。

### 地域への経済的支援(中国)

YCSは経済的支援を必要とする家庭や地域のための支援活動を行いました。

- 西部貧困地域の家庭に洋服、靴、本、文房具、玩具などを寄贈しました。
- 社員ボランティアが地域の低収入家庭や一人住まいの高齢者宅を訪問し、食料品などを寄贈しました。

## 中東・アフリカでの地域貢献活動

### 地域の人財育成や雇用に貢献(バーレーン、サウジアラビア)

Yokogawa Middle East & Africa B.S.C.(C) (YMA)は、CSRの中で最も有意義な活動は草の根レベルで社会に変化をもたらすことであると考え、周辺地域の8大学/研究機関と密接に協力してきました。

その活動は、キャリア・デー、シンポジウム、ワークショップ、セミナーへの参加や、実践的な講座を通して大学のカリキュラムを補完することまで、多岐にわたります。インターンシップ・プログラムも毎年実施しており、2014年度は65人が参加しました。

- 労働者の能力開発は、地域の重要課題の一つであり、YMAは積極的に支援しています。20人以上の方々が1~2年間の集中講座に登録し、研修を受けています。サウジアラビア、アラブ首長国連邦、オマーン、バーレーンの各地域で、国内労働力を開発する、このような取り組みを行いました。
- YMAは地域の複数の大学で行われるキャリア・デーに参加しました。数千人の学生に対してYOKOGAWAの職務内容や、様々なキャリアの選択肢についての情報、専門的な研修プログラムについて説明し、多くの注目を集めました。
- Yokogawa Saudi Arabia Ltd. (YKSA)は、サウジアラビアで行われた、女性のための特別なキャリア・デーに他の企業とともに参加しました。
- YMAは、政府が定めたレベルよりもはるかに高い比率で、労働力の健全なバランスと多様性を維持してきました。主な課題は、地域の一部の国でジェンダー・バランスを達成することでしたが、YMAは女性のグラフィックデザイナーの人数を増やし、リーダーとしてのスキルに自信を持たせていくことで、この課題を克服しました。



### インターンシップなどで学生と教育機関を支援(南アフリカ)

Yokogawa South Africa (Pty) Ltd. (YMA-SA)は、技術系大学生のインターンを2009年度から毎年受け入れたり、様々な教育機関に寄付を行うなど、南アフリカの学生と教育機関に対する支援を行っています。2014年度は10名のインターンを受け入れました。

### 新卒学生へのトレーニング実施(ナイジェリア)

Yokogawa Middle East & Africa B.S.C.(C) (YMA)とYokogawa Nigeria Limited (YMA-NG)は、技術系の新卒学生にYOKOGAWAの制御システムについてトレーニングする取り組みを開始しました。トレーニング対象者は29名で2014年8月から2015年5月までの9か月に亘る集中的なプログラムです。この取り組みはナイジェリア国内の人材育成に貢献するもので、グローバル企業の取り組みとして要請されているものです。



## トーストマスターズ大会を支援 (バーレーン)

話し方や、パブリック・スピーキング (大勢の人前で話すこと)、リーダーシップ・スキルの上達を目的とするトーストマスターズ大会がバーレーンで行われ、Yokogawa Middle East & Africa B.S.C. (C) (YMA) はスポンサーとして大会を支援し、中東地域での人財育成に貢献しました。

## 児童養護施設や福祉イベントを支援 (南アフリカ)

Yokogawa South Africa (Pty) Ltd. (YMA-SA)は、児童養護施設を訪問し、孤児にプレゼントを渡す活動を行ったり、障害者を支援するために毎年行われるイベント"Casual Day"に寄付を行うなどの地域貢献活動を行いました。



児童養護施設にギフトを贈呈

## 献血活動 (バーレーン、サウジアラビア)

Yokogawa Middle East & Africa B.S.C.(C) (YMA)およびYokogawa Saudi Arabia Ltd. (YKSA) は、社員に献血を呼びかけ、合わせて100名以上の社員がボランティアで献血を行いました。

## 地域の環境保全活動を実施 (バーレーン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦)

Yokogawa Middle East & Africa B.S.C. (C) (YMA) の各拠点は、環境保全の意識向上のために、地域の海岸において清掃活動などのイベントを行いました。

- "Nature Camp at the Desert"  
(2015年1月16日 バーレーン)
- "Tree-Planting campaign"  
(2015年3月14日 バーレーン)
- "Tree-Planting campaign"  
(2015年3月27日 アラブ首長国連邦)
- "Beach Cleaning at Abu Dhabi"  
(2015年3月14日 サウジアラビア)



Tree-Planting campaign

## ヨーロッパでの地域貢献活動

### 医療支援

- 長期の病気で入院している子供を支援するクリニックラウン（臨床道化師）への寄付を行っています。（Yokogawa Europe B.V. オランダ）
- 多くの市民ランナーが楽しくランニングしながら参加するチャリティイベント“アメルスフォート・ビジネス・ループ”を支援しています。社員がランニングに参加し、がん治療にあたる財団への募金に協力しました。（Yokogawa Europe B.V. オランダ）
- ラジオ局3FMがクリスマスに行うチャリティ活動である“3FM シリアス・リクエスト”へ募金を行いました。この募金は赤十字社のプロジェクトを支援するために使われます。（Yokogawa Europe B.V. オランダ）

### 慈善、社会福祉支援

- 知的障害者のための慈善団体、人道支援団体、幼稚園、消防隊などに寄付を行いました。（Rota Yokogawa GmbH & Co.KG ドイツ）
- 世界中の子供を支援する国際NGO「SOS Villaggi dei Bambini」に対して里子二人を支援できる額の寄付を行いました。（Yokogawa Italia S.r.l. イタリア）
- 障害者のための仕事を見つけ、雇用を支援する慈善団体WALTON LEA CHARITY fundへの寄付を行いました。（Yokogawa United Kingdom Limited イギリス）
- コミュニティに対して奨学金支援やコンピューター教育を行っているNGO ENTREAMIGOSに寄付を行いました。（Yokogawa United Kingdom Limited イギリス）

### スポーツ支援

- 「Ajinomoto Eurolysine bike club」や「SporT Aventures 64 sports association」などのスポーツ団体への寄付を行いました。（Yokogawa France S.A.S. フランス）
- Amersfoortの水球クラブに寄付を行いました。（Yokogawa Europe Solutions B.V. オランダ）

### 災害支援

- オーストリアで起きた洪水に対する支援キャンペーン「ORF Hochwasserhilfe sofort」に対して義援金を寄付しました。（Yokogawa GesmbH, Central East Europe オーストリア）

## 過去5年間の人事関連・社会貢献活動データ

### 人事関連データ

#### 従業員数

	2010	2011	2012	2013	2014
連結	19,334	19,437	19,685	19,837	19,601
個別（横河電機）	4,723	4,211	4,298	2,958	2,871

(単位：人)  
毎年度末時点の人数

#### 障害者雇用率

	2010	2011	2012	2013	2014
障害者雇用率	2.28	2.25	2.23	2.28	2.15
法定雇用率	1.80	1.80	1.80	2.00	2.00

(単位：%)  
毎年6月1日時点の率

#### 労働災害度数率

	2010	2011	2012	2013	2014
横河グループ(国内)	0.31	0.18	0.42	0.31	0.57
横河グループ(海外)	0.39	0.38	0.23	0.45	0.49
横河グループ(全体)	0.35	0.29	0.32	0.39	0.53

(単位：%)  
度数率 = 休業災害負傷者数 ÷ 延べ実労働時間数 × 100万

## 社会貢献活動データ

### YOKOGAWA理科教室開催回数

	2010	2011	2012	2013	2014
開催回数（回）	5	5	6	4	3
参加児童数（人）	129	115	129	73	70

### 横河ファウンドリー（特例子会社）見学対応

	2010	2011	2012	2013	2014
見学受け入れ団体・ 人数	51 団体 371 人	76 団体 365 人	64 団体 272 人	42 団体 259 人	26 団体 108 人

### 福祉自販機による寄付

	2010	2011	2012	2013	2014
SELP 自販機購入数 （本）	105,573	123,732	115,775	97,489	73,782
SELP 自販機からの 購入による寄付金額 （円）	165,500	344,016	462,252	357,952	265,932

協力：特定非営利活動法人 日本セルプセンター

### 「東京グリーンシップアクション」参加人数

	2010	2011	2012	2013	2014
当社グループからの 参加者	32 人	27 人	26 人	19 人	9 人

主催：東京都環境局、 協力：NPO 法人 緑サポート八王子

### 「Book Magic」寄付数

	2010	2011	2012	2013	2014
本・CDの寄付数(点)	5,675	2,386	1,505	1,239	1,459
寄付金額(円)	98,717	47,122	28,193	23,467	30,910

協力：特定非営利活動法人 ジェン (JEN)

### 「ランドセルは海を越えてキャンペーン」寄付数

	2010	2011	2012	2013	2014
ランドセル寄付数(個)	100	55	39	27	120

主催：株式会社クラレ

### ハートフルヘルシーメニューによる寄付

	2010	2011	2012	2013	2014
当社食堂での利用数(食)	1,711	1,851	2,455	2,893	1,519
寄付によって提供できたオレンジの苗(本)	285	—	—	—	—
葉酸など栄養補給の支援ができた妊婦さんの人数(人)	—	370	491	579	254

協力：国際協力 NGO ジョイセフ